

平成25年度

研修集録

第 28 号

秋田市立秋田商業高等学校

発刊にあたって



副校長 工 藤 裕

教育関係紀要の巻頭言を見るといつの時代も前提として共通のことが語られていることに気づく。それは「教育の危機」である。どの時代のものを見ても、教育界は「困難な時代」を迎えているのであり、克服すべき「困難な課題も山積」しているのである。教育界の置かれている現状を楽観的に捉えているものにはほとんどお目にかかったことはない。

これは時代によって各方面から実にさまざまなものが教育界に要求されていることの表れでもあろうし、誠実に対応しようとする教育界の真面目さでもあろう。

そうしたさまざまな要求に対して応えるためにも、また変わりつつある生徒や保護者への対応という面でも、我々は「研修」を通して教師としての力量をグレードアップしていく必要があり、またそれは我々が負っている義務でもある。言うまでもなく「研修」とは「研究」と「修養」であり、「学芸をみがき修めること」と「執務能力を高めること」である。教科の指導力の向上と校務分掌の実務処理能力の向上といったところであろうが、前提として人間性の涵養があることも忘れてはなるまい。

教科の指導力は教師としての指導力の源泉と言ってもいい。授業のうまさは生徒指導や進路指導の信頼感につながるのである。授業が下手でも生徒に好かれるというケースはあるかもしれないが、教師としての信頼感はどうかなと思う。黒板と教科書だけに目を落として授業する先生が優れた生徒指導をするとはどうしても思えないのである。

さらに生徒理解のために生徒指導や教育相談などの研修がある。ここの部分こそひと昔前の常識が通じない分野である。不登校にしても対応マニュアルが変化してきているし、SNSに関する生徒事故やその対応のあり方など、目まぐるしい変化を見せている。

また進路指導などの最新のトレンドを学ぶ研修や、情報処理など具体的なスキルを磨く研修などもあり、今を生きる教員として学ぶべきことは本当にたくさんある。

さて、かつて教員研修を担当した経験から、先生方の研修に取り組む姿勢の熱心さは大いに評価している。ことに教科指導に関する研修は非常に活発に行われるのが通例である。しかしながら、残念な受講スタイルもないわけではなく、三例ほど挙げて互いの反省の材料としたい。

「俺は忙しいんだ型」：忙しいのになんで研修を受けなければならないんだという思いが先に来て、研修内容に入っていけない型である。最初から不満を持っているので、非常に貴重な講義であっても、斜に構えてその価値を認めない。どうせ研修終了までそこに座っていなければならないのに、まことにもったいないと思う。内職という言葉道断な行為をするのもこの型の人である。

「新しいものは苦手型」：比較的ベテランに多い。これまでのスタイルを変えたくない。新しい考え方ややり方は面倒くさいという型である。カタカナの用語やコーチング、組織マネジメントという新しい概念の導入に最初から抵抗感があるのだろう。教育の「不易流行」という言葉を出して、主に「不易」の部分を強調することで、暗に講義内容を否定しようとする。そんなに構えなくてもいいのにと感じてしまう。

「そんなものは知ってるよ型」：評論家スタイルである。その内容なら自分はもう知っているのだから聞く必要はないという型である。思い上がっているわけではないだろうが、同じ内容でも聞かされたときに新しい発見があるのにと、いささか残念に思う。

いずれの型も特殊な人の例ではない。我々にも潜在する傾向である。校内であろうと校外であろうと、研修の機会があったときには、本当に身になる研修となるよう気をつけたいものである。

目 次

◎巻頭言「発刊にあたって」	副 校 長	工 藤	裕	
I 研究発表				
◇地域経済活性化プロジェクト ―地元動物園のプランニングを通して―	商 業 科	畑 沢	一 利	…… 3
◇平成25年度サイエンス・リーダーズ・キャンプに参加して	数 学 科	野 呂	耕一郎	…… 8
◇平成25年度第61回東北六県商業教育研究大会 教育課程分野発表 秋田県の新教育課程編成の進行状況と課題 ―学校の特色を生かした教育課程―	商 業 科	保 坂	徹	…… 9
II 指導主事訪問（研究授業）				
◇研究授業の学習指導案と反省・課題（地歴公民科）	地 歴 公 民 科			…… 15
◇研究授業の学習指導案と反省・課題（商業科）	商 業 科			…… 18
◇全体協議会	教 務 部			…… 22
III 校外研修				
◇平成25年度商業科教員指導力向上研修 県外視察報告	商 業 科	小 西	一 幸	…… 27
IV 校内研修の記録				
◇第1回校内職員研修「スポーツ栄養学について」	研 修 部			…… 29
◇第2回校内職員研修「インクルーシブ教育について」	研 修 部			…… 32
◇授業改善のための研修（商業科）	商 業 科	保 坂	徹	…… 34
V 勝平中学校との中高連携				
◇勝平中学校2年生の授業体験報告	商 業 科	保 坂	徹	…… 35
◇英語科情報交換会	英 語 科	宮 塚	信 博	…… 38
VI 授業公開週間の実施について				
	研 修 部			…… 41
VII 進路指導部の取り組み				
◇先輩講話	進 路 指 導 部			…… 47
◇小論文を書く	進 路 指 導 部			…… 50
VIII 報告				
◇ビジネス実践『AKI SHOP』	商 業 科	櫻 庭	咲 子	…… 52
◇ビジネス実践「25年度キッズビジネスタウンの取り組み」	商 業 科	石 田	雄 哉	…… 54
◇ビジネス実践「エコロジカルビジネス」	英 語 科	大 堤	直 人	…… 56
◇「特別支援学校のセンター的機能充実事業」に係る研修会に参加して	保健・教育相談部	須 藤	あさ子	…… 58
◇秋田市学校保健大会報告 ～防災教育、防災管理等について～	保健・教育相談部	須 藤	あさ子	…… 62
◇秋田市教育委員学校訪問記録	教 務 部			…… 65
◇高等学校授業力向上研修講座報告	英 語 科	菅 生	あずさ	…… 69
◎編集後記	研 修 部			

地域経済活性化プロジェクト ―地元動物園のプランニングを通して―

商業科 畑 沢 一 利

Ⅰ「地域経済」を学習している流通経済コースの特徴

1 商業科目を通して

流通経済コースは、『マーケティング等を系統的に学び、営業販売や企画に携わる人材の育成』を大きな目標に掲げている。系統的な学びの具体としては、1年次はビジネス基礎・情報処理・簿記の3科目でビジネスの基礎基本を体験的に学び、2年次には、マーケティング・経済活動と法などの科目で企業・商店・地域経済に関するビジネスの諸活動の基礎的・基本的知識と技術を習得させ、3年次には、総合実践や地域経済において、仲間や外部の方々とコミュニケーションをとり、自らの考えを提案し理解を得る実践力を身に付けることをねらいと考えている。

2 総合的な学習の時間（ビジネス実践）を通して

流通経済コースを選択した生徒の多くは、商品開発を通して社会人基礎力を養い秋田県の活性化に取り組んでいるAKI SHOP（アキショップ）に所属している。2年生と3年生が



同じ商品開発班で活動し、マーケティングなどの授業で得た知識と技術で市場調査、商品企画書づくり、企業の人たちの前でのプレゼンテーション、そして販売実習という貴重な体験をしていく。



3 マーケティングと地域経済の継続

(1)マーケティング（2年次）

2年次に学ぶマーケティングでは、理論と実践のバランスを取りながら、ケーススタディを重視して進め、一つ一つのテーマごとにレポートの提出を義務づけている。これは、ケーススタディを通して企業の考えを学んだ後に、自分はどう考えたのかを言語化することをねらいとしたものである。

ケース（事例）の例としては、

- ・地球温暖化に企業はどのようなことを考えているのか
- ・ポカリスエットとアクエリアスの戦略の違い
- ・オリンピックに見るスポーツメーカーの戦い（差別化政策）
- ・雑誌の広告における読者ターゲット層

(2)地域経済（3年次）

3年次はマーケティングで学んだ企業を分析する力や自分で考え抜く力などを基本として、地域の経済活動を学び、自分たちの課題として考え、プランニングをする地域経済へと発展させている。平成22年度から始めたこの科目は、生徒の地域理解、郷土愛、グループで協力して問題を解決していく力、そして自分たちの考えを提案するプレゼンテーション能力をつけることをねらいとしたものである。授業展開は、2クラス（約80人）を2時間続きで4人の担当者が受け持っている。毎年、地域経済で取り上げるテーマは、担当者が話し合いで決めている。

Ⅱ 流通経済コースにおける地域経済の学び

1 平成22年度―地域経済を調査する

平成22年度は「地域経済を調べる」を大きなテーマとして取り組み、場所や調査内容に変化をつけ、グループ活動を基本にして協力して調査し、レポートの提出をさせた。

取り上げたテーマは、広く遠くのものからと考え、はじめは秋田県の観光とお土産、次に秋田県内で特徴のある取り組みをしている五城目町、最後に商業文化の複合施設の新設で大きな変化のありそうな秋田駅中心の商店街とした。

(1)導入―地域経済を考える

自分たちの体験や経験をもとに県外から秋田に来た人々に対して贈りたいお土産や案内したい場所などを考えさせた。具体的な相手を意識させることで、自分の課題として考えさせた。また、300人にアンケート調査をして、自分たちの考え以外の感覚を入れることで対象にする年齢層や性別などで贈りたいものや案内したい

Q1 秋田県人が、県外の人に贈答品として贈りたい秋田県産品ランキング

1位 126票 稲庭うどん		佐藤養助商店 HP
2位 120票 きりたんぼ		齊藤昭一商店 H
3位 100票 地酒		高 清

場所が違うことを感じたようである。

(2)展開1―地域経済に刺激を与えているのは

地域経済に刺激を与え、経済波及効果のあるものはどのようなものなのかや、どのような経済波及効果があるのかなどを考えさせるため、秋田県出身の漫画家矢口高雄の「釣りキチ三平」を取り上げた。釣り好きの少年三平の釣りをめぐる物語であるが、この作品が大ヒットし前年度に映画化されたり、地元増田町に漫画記念館が建ったり、鉄道やバスのラッピングとして採用されたりと、漫画から様々な場所や場面で利用されている。そして、釣りキチ三平の映画のロケ地である五城目町に焦点を当てた。人口が減少の一途をたどる町であるが、長年続く朝市で様々なイベントを企画したり、古さを大切に、その古さに新鮮さを加えて街づくりをしている。撮影後の経済波及効果を分析したところ、ロケ地のバスツアー、三平カクテルの発売、農家レストランの開店など様々な取り組みをしていることがわかった。話題性のあることが町や民間の活力になっていることに生徒たちは驚いた。



(3)展開2―秋田市中心市街地の活性化のためのビジネスアイディア

秋田市中心市街地を三つの地域に分け、それぞれの特徴を調べ、現状と課題を分析した。

日頃見慣れた場所であるが現地調査を行った時は、商店街や店舗への顧客特性（性別や年齢など）人の混雑具合などを観察の視点とした。その後、作成したレポートと発表では、ターゲット層を絞り込んだ戦略をすることの提案や、本屋と食料品スーパーなどの異業種が近くにあることのメリットを指摘する考えも出てきた。これらのことは生徒の目線が、消費者から、起業家または企画者へと変化したのではないと思う。

2 平成23年度－地域経済の調査から提案につなげる

平成23年度は「地域経済を調べ、提案する」として、調査するだけでなく自分たちの考えを提案していこうをテーマとして取り組んだ。取り上げ方としては、前年度の内容を引き継いだ秋田県の観光イベント。そして、募集の要請があった秋田市ラッピングバスの提案。続いて、学校の近郊にあり老朽化の課題を抱えながらも様々な取り組みをしている大森山動物園のプランニングである。

(1)導入－地域経済を考える

4～5月の導入部分は、前年度と同じように県外から秋田に来た人々に対して贈りたいお土産や案内したい場所などを考えさせた。アンケート調査の結果から贈答品・お土産として贈りたい商品ランキングを調査し、それぞれの商品のどこが訴求ポイントになっているかなどを分析させた。生徒たちが感じたのは、商品に特徴があり、その特徴をうまく地域と結びつけて相乗効果を上げている商品の人気が高いことであった。

(2)展開1－秋田市のラッピングバスを提案する

前年度の先輩たちの秋田中心街の活性化レポートを参考にしながら、「秋田らしさ」を考えさせ、その良さをバスのデザインとして表現する実習に取り組んだ。

いつもは文字や話し言葉で表現をしているが、表現を「絵」とする難しさに戸惑いながらも、あたたかいイメージを表すために暖色系を選んだり、一目で何が描かれて何を伝えたいか

13 6/30 7/考査日＝提出日 ・ ・ ・ ・ ・ 授業5時間程度＋

<http://www.city.akita.akita.jp/city/ur/im/05kotu/raппing/propo/default>

ラッピングバス・デザイン記入用紙		NO.
【予定バス車両】		
【デザインの趣旨・説明】		
①「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
②「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
③「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
④「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
⑤「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
⑥「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
⑦「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
⑧「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
⑨「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
⑩「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
⑪「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
⑫「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
⑬「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
⑭「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
⑮「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
⑯「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
⑰「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
⑱「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
⑲「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
⑳「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㉑「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㉒「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㉓「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㉔「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㉕「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㉖「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㉗「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㉘「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㉙「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㉚「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㉛「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㉜「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㉝「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㉞「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㉟「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㊱「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㊲「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㊳「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㊴「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㊵「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㊶「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㊷「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㊸「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㊹「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㊺「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㊻「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㊼「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㊽「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㊾「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		
㊿「あきたのあたたかみ」をテーマに、秋田の魅力を表現し、観光客にアピールする。		

を考えた。この実習は、普段何気なく見ているものには、作者の意図があるのだということを感じる良い機会となった。

(3)展開2－大森山動物園を分析し、高校生が提案する活性化案

始めに大森山動物園の調査をインターネットやパンフレットなどの資料を使って行った。

調査する項目を指示し、その項目ごとに他の動物園と比較して点数化させた。その結果を、大森山動物園の総合評価（ストロングポイントとウィークポイント）としてレポートを作成させた。続いて、現地調査に出かけ、事前調査と実地調査の違いを感じ取ったり、改めてストロングポイントとウィークポイントの分析をした。

活動時に着目するポイントとして次の6点を示した。

- ①大森山動物園のストロングポイント（長所）
- ②大森山動物園のウィークポイント（短所）
- ③ストロングポイントを更に伸ばす戦略を考える
- ④ウィークポイントをストロングポイントに変える戦略を考える
- ⑤散策の必見ポイントを見つける
- ⑥他業種とのコラボレーション（共同）の可能性を探る

(4)まとめ－大森山動物園の現状を分析し、高校生が提案する活性化案

グループごとに着目ポイントをまとめ、8分で発表をした。



3 平成24年度―地域の動物園に的を絞った調査と提案

平成24年度は「地域経済の調査から提案へ」をテーマに、調査研究を提案に活かす取り組みをした。前年度に行った動物園の調査レポートを学習し、実際に現地調査をして、先輩たちの考えを引き継いだり、深めたりしながら進めた。分析を重視した前年度から、今年度は高校生のアイデアを提案し、わかってもらうためにプレゼンテーション能力の育成に重点を置いた。

(1)導入―前年の大森山動物園レポートの学習

前年度に取り組んだ内容をまとめたレポートや発表資料をもとに先輩たちが考えたことを学んだ。大きな観点を他県の動物園との比較とし、分析の方向をストロングポイントとウィークポイントであると指示した。比較項目も以下のよう示した。

- ①動物園の概要と歴史
- ②所属している動物の種類
- ③動物園のイベント
- ④お土産、キャラクターグッズ
- ⑤食事・食堂
- ⑥動物に関係のないアミューズメント（娯楽施設）

(2)展開1―大森山動物園の現地調査と分析

6月に現地調査を行い、自分たちの調査結果（予想）との違いを感じさせた。実際に行って動物を見たり、食堂で食事をしたり、キャラクターグッズを見たり、娯楽施設を体験した。また、飼育員や動物園の方々にインタビューをして現場の声を直接聞くことができ、予想と実際の差が大きいことに気がついたようであった。



(3)展開2―大森山動物園に対する活性化案を提案する

活性化案を考えさせる時に重視した点は次の2点である。

- ・ ストロングポイントとウィークポイントを整理する
- ・ ストロングポイントを更に良くし、ウィークポイントをストロングポイントに変えるために、他の施設や団体、場所とのコラボレーションを提案するクロスポイントを見つけて提案する

コラボレーションの対象は、販売している商品であったり、教育機関であったり、スポーツチームであったりと意外と思われるものも積極的に考えさせた。そして、そのコラボレーション先のメリットも提案の内容（クロスメリット）に入れることを指示した。

(4)発表―活性化案を提案する

8分間の発表時間用のプレゼンテーションを作成し、読み上げ原稿を考えさせた。生徒たちのプレゼンテーションソフトの操作は年々上手になっているが、要点を捉え、聞いている人にわかりやすく訴求力のあるものにするには提案の理由付けと新鮮さが大切であることを指導した。

(5)評価―お互いに評価する

提案の発表は、相互評価をしている。他の班は自分たちには無い観点で分析をしていたり、提案の視点が新鮮であったりすることに驚いている様子が伺えた。



ション能力を身につけることをねらいにしたものである。今までの取り組みと成果を客観的・多角的に評価しながら、大きく「地域を知り、地域と共生し、地域を創る」という視点を忘れずに将来の地域のリーダーを育てていきたいと考えている。

Ⅲ 成果と課題

3年間の取り組みで生徒たちは、地域経済の活性化をプランニングするには課題を広く捉えることや、ストロングポイント（強み）とウィークポイント（弱み）を分析し、強みを更に強調し、弱みを強みに変えていく発想の転換が大切であることを学んだ。更に、積極的に自分たちが関わっていくためには人とのつながりや、他の団体や企業と協力することの大切さを感じることもできた。今後の課題としては、外部への発信を実際に行うことである。24年度までは、まだレポート等を外部の方々に評価していただいていたので、25年度は外部からの評価をしてもらう機会を作り取り組もうとしている。また、担当者が変わっても内容を引き継ぎ、科目のねらいを変えずに内容を充実させていくことも課題のひとつである。対象にしていることが地域の経済であり、幅が広くどこからでも取り組めるが、逆にどこに手を出してよいかわからなくなるときがある。教員同士のコミュニケーションを良くしながら、常に新しいことにチャレンジする気持ちで取り組んでいきたいものである。

Ⅳ おわりに

この科目は、流通経済コースの3年間の学習のまとめとして生徒たちの地域に対する理解を深め、郷土愛を育み、グループで協力して課題を解決していく過程を通して、自分たちの考えを正確にわかりやすく提案するプレゼンター

平成25年度サイエンス・リーダーズ・キャンプに参加して

数学科 野 呂 耕一郎

1 サイエンス・リーダーズ・キャンプについて

サイエンス・リーダーズ・キャンプは、独立行政法人科学技術振興機構（JST）が主催し、JSTと実施協定を締結した機関が各プログラムの実施・運営を担当し、夏季休業の期間中、全国の中学校、高等学校、中等教育学校等の理数教育を担当する教員に、先進的な研究施設や実験装置がある研究現場で実体験し、第一線で活躍する研究者、技術者等から直接講義や実習指導を受けることなどを通じて、最先端の科学技術を体感させるとともに、才能ある生徒を伸ばすための効果的な指導方法を修得させる合宿形式のプログラムである。

プログラムへの参加を通じて、教員の理数教育における指導力の向上を図るとともに、将来、スーパーサイエンスハイスクール等の関係施策においても指導的立場で活躍するなど、地域の理数教育において中核的な役割を担う教員となるための素養を身につけさせることを目的としており、さらに、地域の枠を超えた教員間のネットワークが形成されることもねらいとしている。

2 北陸先端科学技術大学院大学会場での研修内容

参加は今年度から公募となり、今年度は全国6会場で行われたが、私は8/20～23に北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科（前園准教授グループ担当）で行われた「シミュレーション科学を題材とした総合自然科学教育 ～化学、物理、数学、統計科学、コンピュータ科学の合流／基礎科学へのアキバ系的アプローチ～」というプログラムに参加した。並列処理という言葉は聞いたことはあり、興味はあったの

で迷うことなく応募した。参加者は北は秋田から南は鹿児島まで23名が参加した。SSH指定校の教員が比較的多く、課題研究等に意欲的に取り組んでいる教員が集まった。

1日目 コンピュータを自作する。一人一人にCPU、ハードディスク、メモリ、マザーボード、電源ユニット等、が配布され前園先生はじめ大学院生のスタッフとともにPCを自作する。

2日目 自作したPCにLinux（CentOS）をインストールする。次にMpich2という並列処理を行うためのソフトをインストール等、並列処理に必要な環境を準備した。その後グループ（4人）毎にクラスタが構成された（並列処理環境が準備できた）ことを確認した。また、大学内のスーパーコンピュータ「Cray XC30」等を見学した。

3日目 シミュレーションソフト「CASINO」をインストールして並列処理を行う。4台の並列から8台、16台と増やしていき、最終的には24台を接続してその処理の速度を比較・検討した。またこのシミュレーションから得られる前園先生の研究分野についての解説をしていただいた。

4日目 自作PCをこれまでのクラスタに追加接続した。3日間のまとめと参加者各々の感想や今後の取り組み等を話し合い終了した。

毎日夕食後に交流会があり、前園先生はじめ毎晩多くの先生方との交流ができ、全国の意欲的な取り組みをしている事例を聞くことができた。私はLinuxの経験はあったので特に問題はなかったが、初めての人は少し苦戦したことと思われる。並列処理を実際に体験することができ、その基本構成等を知ることができ、とても充実した研修となった。

秋田県の新教育課程編成の進行状況と課題

－学校の特徴を生かした教育課程－

商業科 保 坂 徹

平成25年9月5日に第61回東北六県商業教育研究大会（場所：福島県会津若松市）が開催され、大館国際情報学院・能代松陽高校・湯沢翔北高校とともに教育課程分野において「秋田県の新教育課程編成の進行状況と課題」と題した研究発表を行った。以下は、秋田商業高校の発表資料の抜粋である。

1 学校の概要

(1)概 要 【創 立】大正9年（平成25年で創立93年）

【所在地】秋田県秋田市新屋勝平台1－1

【校 訓】感謝 勤勉 鍛錬

(2)生徒の在籍状況（平成25年4月）【商業科】

学年	コース名	男子	女子	コース計	合計
1年生		93	147		240
2年生	会 計 コ ー ス	25	56	81	241
	流通経済コース	42	40	82	
	情 報 コ ー ス	33	45	78	
3年生	会 計 コ ー ス	22	19	41	236
	流通経済コース	20	19	39	
	情 報 コ ー ス	66	90	156	

(3)進路状況

	進 学								就 職			
年度	男女	四年制大学		短期大学		専修 学校	男女別	進学計	県内	県外	男女別	就職計
		国公立	私立	国公立	私立							
22	男	2	40	0	0	10	52	133	25	12	37	100
	女	2	22	1	13	43	81		51	12	63	
23	男	1	44	0	2	11	58	132	34	1	35	91
	女	0	19	1	20	34	74		47	9	56	
24	男	9	48	0	3	9	69	136	29	7	36	96
	女	7	16	0	20	24	67		47	13	60	

(4)部活動の状況

平成24年度に全国大会に出場した部活動

運動部：硬式野球、卓球、剣道、柔道、レスリング、水泳

文化部：コンピュータ、会計学、珠算

(5)秋田商業高校の学び

1) 基本目的

義務教育で培った教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて高度な普通教育及び商業教育を施す。

2) 教育の目標

- ①後期中等教育段階として求められる一般的な教養と教科商業が求める専門的な知識、技術及び技能を習得させる。
- ②建学の精神である感謝・勤勉・鍛錬の意味を具現化させながら、豊かな人間性、創造性、健やかな身体を養う。
- ③社会事象についての広く深い理解と健全な批判力を養う。

3) 本年度の教育活動の重点事項

- ・秋商キャリア教育構造図（3年目）の各項目を着実に実践する
- ・積極的な挨拶の励行と凛とした姿勢の保持
- ・早期の進路意識の涵養と体系化
- ・生徒用秋商キャリア教育構造図の修正・実施
- ・各コースの周知と基礎学力定着のための授業改善
- ・ビジネス実践の一元的な管理・運営
- ・部活動の充実、特に文化部各部の計画的実践
- ・学校の広報活動と応援態勢の充実

(6)各コースのねらい（2年次から）

1) 会計コース

「会計・原価計算・ビジネス経済」などの科目で企業会計の理論と様々な手法の基礎的・基本的知識と技術を習得する。

3年次には「管理会計（会計実務）やビジネス実践」において、会計情報を分析し、適切な販売などの諸活動や経営判断ができる情報を表現する実践力を身に付ける。

2) 流通経済コース

「マーケティング・経済活動と法・ビジネス経済」などの科目で企業・商店・地域経済に関するビジネスの諸活動の基礎的・基本的知識と技術を習得する。

3年次には「総合実践や地域経済、ビジネス実践」において、商品開発などを通して、仲間や外部の方々とコミュニケーションをとり、自らの考えを提案し理解を得る実践力を身に付ける。

3) 情報コース

「プログラミング・ビジネス情報」などの科目でコンピュータやネットワーク社会におけるビジネスの諸活動の基礎的・基本的知識と技術を習得する。

3年次には「電子商取引やコンピュータネットワーク、ビジネス実践」などにおいて、理論の学習と実習を通して課題を分析できる力を養い、情報関連ビジネスのスペシャリストとしての実践力を身に付ける。

(7)総合的な学習の時間の学び

本校では平成14年度から商業高校の学習の特徴を生かして、「総合的な学習の時間」で全校生徒

が「ビジネス実践」を行っている。学校全体を会社組織と見なして、全職員・生徒で3年間を通した取り組みである。外部企業の方々に協力してもらい実践的な活動をすることで、社会人としての基礎力を養うことを目標としている。

1年生は、商業科目の「ビジネス基礎」の内容を基本にしたビジネス実践基礎講座の学習をする。2・3年生の約480人が、AKI SHOP（約410人）、キッズビジネスタウン（約40人）、エコロジカルビジネス（約30人）に分かれ活動し、例年11月上旬に外部施設を借り切ったAKI SHOPイベントと、学校を模擬社会として小学生に体験的金融教育を実践するキッズビジネスタウンを開催している。

2 秋田商業高校の教育課程編成に当たって

(1) 将来構想委員会で基本方針

平成23年度に、管理職と総務・教務・商業科と学年主任からなる将来構想委員会を組織し、学校の中期ビジョンやキャリア教育、そして新教育課程について話し合った。

特に時間がかかったのは、学校の特色と課題を共通理解し言葉にすることであった。

学校の特色は、次のようなことであった。

① 6割の進学と4割の就職

特に国公立大学志望の増加や指定校推薦利用率の高さ、そして県内就職率の高まり。

② 入試の状況と部活動

部活動を継続して頑張りたいと志願する割合の高い前期選抜と、比較的女子の割合の高い一般選抜。

③ 総合的な学習の時間で行っているビジネス実践

学校全体を会社組織と見なして行っているAKI SHOP、キッズビジネスタウン、エコロジカルビジネスなどの活動で社会人基礎力を身に付けている。

また、課題として上げられたことは、次の4点である。

① 1年次の商業科目（12単位）が多いことで、必修科目の芸術科と家庭科の科目が3年次の履修になり、中学校からの学習の継続性がなくなっている。

② 会計コース・流通経済コース・情報コースの3コースを生徒が希望により選択できるようにしているが、その特色がわかりづらい。

③ 英語の単位数が各学年を通して少ない。（共通履修は8単位）

④ 総合的な学習の時間と課題研究、総合実践などの総合的科目の目標があいまいである。

このことを踏まえ、教育課程編成の基本方針の草案を策定し、教育課程委員会に諮って原案とした。

平成25年度 教育課程作成の基本方針

（全体構成の考え方）

- 1 平成25年度施行の学習指導要領に対応する。
- 2 商業高校として特色を出し、生徒一人一人の自己実現を達成できるバランスの良い教育課程とする。
- 3 2・3年生は、会計コース、流通経済コース、情報コースの三つのコースとする。

（コース設定の目的）

- A 商業科目の専門性の深化を図る。
 - I 進路希望を実現する学力、技術、資格を身に付けさせる。
- 4 三つの各コースは、進学希望、就職希望（公務員を含む）に対応する。

（商業高校としての特色を出し、進路や個性の伸長に応じた教育課程にする）

- 5 秋田商業高校の特色である「ビジネス実践」（総合的な学習の時間）は、3年間を通して実践する。
- 6 商業科目は、1・2年生で基礎的な科目を履修させ、資格取得などを重視する。
3年生では、発展応用的な科目とする。
- 7 普通科目は、社会人としての基礎知識・技術を身に付けるという考えを基本とする。
A 各科の基礎科目（Aあるいは、基礎を付した科目等）をベースにし、続いて選択科目などで、進路や個性の伸長に応じて、科目が選択・追加できるようにする。
I 可能な限り、1・2年生で必修科目を履修させる。
- 8 選択科目（選択A～C）は、進路希望に対応させる。

(2)商業科教育課程委員会

本校商業科職員は、20名を越えていることから、流通ビジネス分野・簿記会計分野・経営情報分野・総合学習分野のそれぞれに責任者を決めて、様々な原案を作り科会に上げるシステムにしている。

教育課程編成においても、この各分野ごとに話し合いを行い、そこで検討されたことについてワークシートに書き残す手法で教育課程を編成した。

このワークシートの左上には、基本方針を書き、その下には各コースのねらいを示した。そして、各科目構成には、それぞれのねらいや目指して行きたい方向性、そして検定の受験スケジュールなどの案を書き込んだ。時間がかかったのは、共通性と専門性のバランスと基本的な考え方がぶれないことであった。

商業科の教育課程編成上の考え方【基本】

- 1 将来地域で活躍する人材に必要な商業教育を考え編成する。
- 2 商業科の全員が身に付ける商業の知識技術を明確にする。
 - ・ 1年生で履修する「ビジネス基礎」「簿記」「情報処理」
 - ・ 2年生で履修する「財務会計Ⅰ」「原価計算」
- 3 各コースとも、2年生で基礎的な理論を身に付ける。
3年生では、社会との結びつきを深めさせるよう学びの系統性をもたせる。
- 4 各コースでは、全員が同じ科目を学ぶ。
- 5 学校設定科目は、できるだけ作らない。標準時数内で編成する。
- 6 受験できる検定は想定するが、検定対策だけの授業はしない。
- 7 「総合的な学習の時間」と「課題研究」、そして「総合実践」の内容を整理する。
- 8 学校の基本方針である「総合的な学習の時間（ビジネス実践）」を3年間の柱とするため、「課題研究」は「総合的な学習の時間」で代替とする。そして、各コースの特色を活かした内容の「総合実践」を3年生で全員が履修する。

3 まとめ

今回の教育課程編成は、単独商業高校の特徴を活かした手法で行った。秋田商業高校の将来像を明確にすることで克服しなければいけない課題を共通認識し、その解決のために教育課程はどうあれば良いのかという取り組みをした。

そして、話し合った内容を全体のものとするために基本方針や編成上の考え方として文書化しぶれないようにした。

秋田商業高校の良い伝統（強い部活動と学業の両立、国公立大学進学増への対応と就職率100%を維持する進路指導、ビジネス実践を通した社会人基礎力の育成など）を継続しつつ、課題（教科の単位数のバランスと中学校からの継続性、進学者への対応として英語の単位数増など）を教育課程上に活かすことができたと感じている。

今後は一つ一つの科目内容を吟味し、実践し、反省と評価を繰り返しながら、学校やコースの育てたい明確な生徒像を一時間一時間の授業の内容に落とし込むような教育実践をしていきたいと考えている。

平成25年度 指導主事(地歴公民・商業)訪問における 研究授業の学習指導案と反省・課題

教 務 部

平成25年10月25日(金)

日 程

1. 学校経営説明 11時30分～11時50分
2. 授業参観 4校時 12時00分～12時50分 校内授業参観
5校時 13時30分～14時20分 研究授業(地歴公民科・商業科)
3. 各科協議会(地歴公民科・商業科・英語科) 14時45分～15時35分
4. 全体協議会 15時45分～16時30分
 1. 授業改善等について
秋田県教育庁高校教育課 指導主事(商業科) 佐藤 貢 先生
 2. 総評 秋田市教育委員会学校教育課 指導主事 主席主査 大山 裕 先生
 3. 質疑応答
 4. 副校長より

訪問指導主事

秋田市教育委員会学校教育課	指導主事	主席主査	大山 裕 先生
秋田市教育委員会学校教育課	指導主事	主査	鈴木 公平 先生
秋田市教育委員会学校教育課	指導主事	主査	大月真由美 先生
秋田県教育庁高校教育課	指導主事(商業科)		佐藤 貢 先生
秋田県教育庁高校教育課	指導主事(地歴公民科)		林 克至 先生

地歴公民科（世界史A）学習指導案

秋田市立秋田商業高等学校 2年A組41名（男子13名、女子28名）

日 時：平成25年11月25日（金）5校時

教 室：2A教室

指導者：地歴公民科 泉 広宣

1 使用教科書 世界史A 新訂版（実教出版）

2 単 元 名 第4章 第1節 工業化社会の到来

3 単元の目標

- (1) 産業革命がイギリスではじまった背景を、「5M」の英単語をてがかりに理解する。
- (2) 機械による大量生産方式が、綿工業から始まり、ほかの分野に波及していった様子を理解する。
- (3) 国内の政治状況の変化とイギリスを中心とした国際分業体制ができた結果を理解する。

4 単元について

- (1) 教材観：産業革命は現代の社会を理解する前提となる。「世界システム」と「国内」事情を意識させつつ、この社会変動を理解させたい。
- (2) 生徒観：世界史を「暗記」教科と考える生徒が多く、苦手になっている生徒もいるが、授業を聞く態度は非常に真摯である。
- (3) 指導観：現在を意識させつつ、ふだんの講義授業ではなく、班別学習を通して全員に授業に積極的に参加させたい。

5 単元指導計画と本時の指導

第4章 第1節 工業化社会の到来（2時間 本時1／2）

6 単元の観点別評価

	関心・意欲・態度（A）	思考・判断・表現（B）	技 能（C）	知識・理解（D）
評価 規 準	産業革命の原因や経過結果の班別学習に積極的に参加しているか。	なぜイギリスで産業革命が起こったのかを国際的な要因とイギリス国内の要因に分けて説明できるか。	適切な資料集の地図や年表を読み取れるか。	産業革命のポイントとなる発明と発明者を理解する。

7 本時の計画

- (1) 目標
 - ①産業革命の背景を理解する。（B）
 - ②ポイントとなる発明と発明者を理解する。（D）

(2) 展 開

	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点	評 価 規 準
導 入 5 分	○本時の概要説明	・産業革命の意味を理解する。	・都市の生活と農村の生活を考えさせる。	
展 開 40 分	○産業革命の背景（5M） ○国際的要因… ①市場 ②資本 ○国内要因 ①国内市場 ③工場 ④労働者 ⑤原料	・プリントの背景の5Mを班ごとに完成させ、発表する。 なぜ、イギリスに Money が蓄積されたのか	・大西洋三角貿易の実態に触れる。 ・「ジェントルマンの生活」を目指せる社会	なぜ、イギリスで始まったのかを理解したか（B）
	○綿織物工業の技術革新 ○蒸気機関の改良と発展	なぜ、 綿織物工業 から機械の発明が始まったのか ・プリントの年表を資料集を見ながら完成し、発表する。	・毛織物と綿織物の違いに注目させる。	・ポイントとなる技術革新の発明を理解したか（B）
ま と め 5 分	○本時のまとめ 次時の予告	・学習した内容を確認し、次時の予習	・学習した内容を振り返る	

地理歴史科協議会 報告書

1 協議会参加者

鈴木公平（秋田市教育委員会学校教育課）、
林克至（秋田県教育庁高校教育課）
泉広宣（授業者）、中嶋修子（司会）、
大関由理、千田義人、杉村美香
高橋賢右（記録者） 以上 計8人

2 授業者反省

- ・電子黒板を活用してみたが、うまく使いこなすことができなかった。
- ・グループ学習を試みた。今日の感じとしては、年に2～3回は実施したいと思った。

3 感想・質問

- ・グループ学習の良い点と悪い点が、どちらも出ていた。
- ・挙手が少なかった。しかし、高校生に挙手をさせて発言させるのは難しいと感じた。
- ・グループ学習は対面になってしまうので、私語が多くなってしまう。しかし、私語から授業内容へと転化させていたのはよかったと思う。
- ・電子黒板の使い方が、今後の課題だと思った。

4 指導主事講評Ⅰ（秋田市教育委員会学校教育課 鈴木公平）

- ・授業は、指導案等で立てた目標に向かっていくことが大事。
- ・秋田市の小学校は、ほぼ電子黒板が導入されている。外国語活動などでは、電子黒板に触れることで発音してくれるので、使用する場合が多い。
- ・電子黒板を、通常の黒板の代用品とすることは難しいと思う。

5 指導主事講評Ⅱ（秋田県教育庁高校教育課 林克至）

- ・「次にやるときにはどうするのか」という反省等が必ず必要となる。次回以降につなげなければならない。
- ・グループ学習の利点は、グループで小まめをしてから全体のまとめをすることである。よって、いきなりできるものではない。年間を通じて行うことで、生徒たちもなれてくるのである。
- ・生徒の発言を取り入れることで、生徒の興味や関心も高まる。生徒の意見を引き出し、生徒を授業に参加させなければならない。「生徒の活躍する場」を増やしたい。
- ・普通科の授業ではなかなか、使いこなせていないと思うので、電子黒板を活用してほしい。

商業科（ビジネス基礎）学習指導案

秋田市立秋田商業高等学校 1年E組40名(男子15名、女子25名)

日 時：平成25年11月25日（金）5校時

教 室：商業棟2階 簿記室I

指導者：商業科 渡辺淳一

1 使用教科書 ビジネス基礎（実教出版）

2 単 元 名 第3章 ビジネスの担い手 6 金融業者

3 単元の目標

- (1) 資金の需要と供給を調整している金融業者の役割と種類を理解する。
- (2) 民間金融機関の中心である銀行のビジネスを理解する。

4 単元について

- (1) 教材観：金融は、前項で学んだ製造や小売などの分野と違い、生徒も利用経験が少ないためイメージしにくい。資金の流れが現在の経済活動を可能にしている点を理解させ、興味を持たせる。
- (2) 生徒観：授業を聴く態度は意欲的であるが、自分の言葉で表現するのが不得手である。
- (3) 指導観：常に知的好奇心を刺激し、「探求」する考えを持ちながら取り組ませる。

5 単元指導計画と本時の指導

第3章 ビジネスの担い手 6 金融業者（2時間 本時1／2）

6 単元の観点別評価

	関心・意欲・態度 (A)	思考・判断・表現 (B)	技 能 (C)	知識・理解 (D)
評価 規 準	金融業者の役割やビジネスについて関心をもち、その活動や動向について自ら意欲的に調べたり、まとめたりしようとする。	金融業者の活動や動向を様々な角度から考察するとともに、活動の概要と変化をとらえ、説明できる。	金融業者に関する最新の動向を調べ、様々な資料を選択して活用することができる。	金融業者について基礎的・基本的な知識を身につけ、その活動や動向について理解している。

7 本時の計画

- (1) 目 標
 - ①金融業者の基本的な役割を理解する。(D)
 - ②金融業者の活動概要を理解する。(B)

(2) 展 開

	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点	評 価 規 準
導入 5分	・ 本時の概要説明	・ 金融の意味を確認する	・ 第2章で学んだ内容を確認する	
展開 40分	・ 金融業者の役割と種類を理解する	・ 資金の流れを確認する	・ 一般的な流通と比較し、資金の需要者と供給者の関係を説明する	
		発問：なぜ金融業者は必要？		
		・ 金融機関の種類を確認する	・ 中央銀行の役割を確認し、その業務と比較して説明する	・ 経済活動の血液である金融の役割を理解したか（D）
	・ 銀行のビジネスを理解する	・ 金融業務の大枠を理解する	・ 主な業務を、簿記との関連も視野に入れて説明する	
		発問：銀行の収益はどのようにして出る？		
		・ 売買業の利益創出と比較する	・ 最近話題になった銀行を例示する	・ 銀行のビジネスと社会的責任を理解したか（B）
まとめ 5分	・ 本時のまとめ 次時の予告	・ 学習した内容を確認し、次時の予習	・ 学習した内容を振り返る	

商業科協議会 報告書

○各科協議会（商業科）

1. 授業者より（渡辺先生）

ビジネス基礎は、情報処理・簿記より理論的な科目で、何かおもしろい授業の仕方がないか考えている。今日は、先生方から何かご教授頂ければと思います。

2. 感想・質問

- ・普段どのように新聞を活用し、どのように展開していくのか興味があった。
- ・生徒は自分でノートを作成しており、先生が板書したものをただ書き写すのではなく、大切だと思うところを自分なりにノートにまとめている。
- ・授業のスピードが良かった。
- ・生徒に今の世の中を伝えようとするのが良かった。
- ・生徒の発表の仕方が良かった。また、答えられない生徒にはヒントをあたえ、後で質問するなどの対応も良かった。
- ・常に緊張を持たせて展開していて良かった。
- ・教科書の内容をしっかりと押さえつつ、他の教科と関連して授業展開していて良かった。
- ・発問の仕方が良かった。例を提示し、生徒の立場になって考えさせていた。
- ・本時の目標があれば良かった。
- ・黒板の使い方が良い。左右を使い分け真ん中で展開していくところや、横と縦との使い方が良かった。
- ・生徒が文章で答えているところが良かった。
- ・おもしろい授業であった。生徒の関心をうまく引き出し教材の工夫があった。
- ・中学校でやった内容や他の科目と関連していて良かった。
- ・金融の意味や、生産と生産者などの言葉一つ一つの意味を把握して使用していた。
- ・話術があり、生徒への発問が多く、生徒に考

えさせる場面があつて良かった。

- ・生徒が理解しにくい内容のところであったが、新聞を活用し教材をうまく利用していた。

<質問>

- ・新聞をどのように活用しているのか。

↓

- ・新聞をよく活用している。『新聞を見てなぜこのようなことが起こったのか』を調べ、『お金を貸すだけで銀行はいいのか』を考え展開していく予定である。

- ・教科書に『かつて三大業務といわれていた』と記載されていたがいつからこのようになっているのか。

↓

三年前の教科書からではないか。金融緩和化からではないか。教科書会社によってなのではないか。

その他の業務が大きくなっているからなのではないか。社会の変化に応じて変化している。

3. 指導助言（佐藤 貢指導主事）

- ・先生方が今回の研究授業を自分のものにしていくことが、本日のポイントではなかったか。
- ・生徒の挨拶返事が良かった。きをつけをして着席であれば良かったと思うが、他の学校にはないところである。
- ・教科書を読む声が大きくて良かった。聞く側が耳を傾けたいくなる声であった。小さい声だと先生がひろって同じことを先生が話すことになる。先生は代弁者ではないので生徒が自分の声で聞かせるのが大切である。
- ・発問に答えられない生徒もいたが、すぐ答えを差し出すのではなく他の生徒に聞くなど、自分で考え発表していて良かった。
- ・ノートの作成が良かった。先生の話聞いて大切なところを自分で記入しており、板書を写すだけでなく良かった。実社会では、自分で考え記録していかなければならない。そういった将来を見越した指導をしていきたい。

そういう生徒を褒め、他の生徒にも紹介してほしい。

- ・考えさせて答えを引き出すところが多々見受けられて良かった。生徒は考えているようで考えていない場合があるので、考える場面をつくり出すところが大切である。生徒にいかにか考えさせる場面をつくるのか、教師側がそういう視点で考えていかなければならない。
- ・話し方、聞き方も大切にしながら、自分の考えを伝えていく活動にしてほしい。

4. 情報交換

- ・「地域経済」を全国大会で発表した。年度によって生徒と話し合ってテーマを決め、生徒が調査してレポートにまとめ発表させているが、人数がクラス単位であり80人を活動させるとなると小回りがきかなく手が回らない。生徒が動いて調査したり発表したりすることを考えていかなければならない。
- ・生徒商業教育研究発表会では能代商業高校でも商品開発で地域活性化をしている。秋田商業高校でも大会で上位を狙える内容ではないか。是非参加し生徒の活躍する場をつくってほしい。

5. まとめ（工藤教頭）

渡辺先生の授業で得るものもたくさんあり、指導主事からの助言もあったが、生徒に還元することが大切ではないか。今年よりは来年、よりよい授業をする。我々が良い授業をすることが大切である。

平成25年度 指導主事訪問 全体協議会＜議事録＞

平成25年10月25日（金）

1. 授業改善案について

秋田県教育庁高校教育課

指導主事（商業科）佐藤 貢 先生

今年から県内唯一の単独商業高校、全県の商業科設置校の中心校として大変にご難儀をおかけしている。また先生方のご協力にも感謝している。3年生の進路においては、特に公務員希望者が増えてきている。また進学では昨年度国公立大学に16名合格という素晴らしい成果をあげていただいた。全国的に見ると商業系の高校では第7位、秋田県では国公立進学率の第4位だった。

私からは本日の授業参観の感想とお願いを述べたい。非常に生き活きとしていて、入学させたときから2年、3年と伸ばしてきているなど感じた。部活動の加入率も94%を超えた。部活動の指導が生徒指導にもしっかり活かされている。授業では、生徒は黒板をノートに写すだけでなく、先生の話を聞いてメモしたり、ポイントを書いたりしているところが見受けられた。このような経験は高校を卒業し、大学、あるいは社会人になった時に非常に役立つ。学習環境に関しては、生徒たちの私物がしっかりとロッカーに収められている。ぜひ継続して行ってほしい。研究授業については、指導案が整理され学校組織としての取り組みがなされている。ぜひ一部の教科だけではなくさまざまな教科で実施してほしい。

高校教育課重点指導事項からお話したい。組織で取り組む授業作りの推進である。具体的には三つある。到達目標を意識した授業構成、生徒の思考を促す授業の展開、評価と検証に基づいた授業改善である。あわせて継続して取り組んでいる「こころ・姿・振る舞い さわやか高校生」を踏まえて見させていただいている。

平成22年度から隔年で指導要録等の諸表簿閲覧を中心とした年1回の学校訪問を行っている。5月から6月には学校の課題、それについての1か月前課題を出してもらっている。

授業の研修会の形式について、先生方から自由に参観の感想などを述べていただいた。高校によっては付箋紙を用いたワークショップ型の研修会を実施しているところもある。色別に良い点、改善点、あるいは生徒の視点、先生の視点などを示し、模造紙に貼る。最後にはがして集約する。非常にやりやすい形式の研修会なのかなと思う。商業科の授業でも取り組まれていて、先生方が慣れているようである。そのような研修会の内容を授業にも活かしてもらえればと思う。

授業研修は商業科がメインになると思われるが、専門高校における共通教科の指導力向上のためにも、共通教科を中心とした研究授業を実施してもよいと思う。県と秋田市の交流人事で、何年かすれば共通教科の先生方も市内の学校、あるいは県立高校に行かれる機会が今後出てくる。その際に授業力向上に向けた改善をするという意識を持たなければ、異動した先で大変になるかと思う。授業の中でじっくり考えさせたり、グループワークに一生懸命取り組んだり、そういった機会を与える場が研究授業の場であると思う。市教委の考えもあるが、例えば商業科の授業と共通教科の授業を1か2、次の年は共通教科の授業を2ないし3のところの研究授業を行ってもらえれば、共通教科の先生の研究授業の機会も増え、指導力向上にもつながっていくと思う。

商業科の研修会でもお話ししたが、生徒がいかに時間の中で考える時間を持って取り組めるか、教師からの一方的な授業になりがちなどこ

ろもあるので、そうではなく、生徒主体の授業をどうやって作り出していくかは、さまざまな研究授業、取り組みをしてみなければ表に出てこない。生徒たちは動いているようで案外全然頭は働いていない。活動あって学びなし、という授業もないわけではないので、そういったところを考える場としても研究授業の機会を持っていきたい。

秋田商業の生徒は優れた生徒が多いので、それに甘えてしまう、先生方がゆっくりしてしまうこともあるかと思う。ぜひ授業改善に向けた取り組みを、自己研鑽をしていただければと思う。

見学した中で、どの授業だったか、非常に生徒に発問があって、生徒に考えさせて、いくつも生徒の考えを引き出す授業も見受けられた。それから、家庭科の授業で、家の間取りを示しながら生徒のいろいろな考えを引き出していた。生徒は非常に興味関心を持って、頭でいろいろ考えて答えを出そうとしていた。そういった活動が小学校や中学校で行われてきているので、それを活かした授業に取り組んでいただければと思う。

最後になるが、秋田商業高校の校長室に入って、まず驚くのは優勝旗の数である。毎年、運動部、文化部が全国レベルの活躍をしており、秋田市民だけでなく県民の方々や中学生も興味を持っている。休みもなくご難儀をおかけしているところであるが、なんとか生徒のためにご尽力をいただければと思う。

2. 総 評

秋田市教育委員会学校教育課 主席主査 大山 裕 先生

引き続き、お話を聞いてもらうばかりで大変恐縮だが、本校を所管する教育委員会代表として大きく2点ある。多少耳が痛いこともあるかと思うが、その点についてはご容赦いただきたい。

教科指導に関する留意点として、

①言葉を磨くということについて

例年、本校を含め秋田市立学校70校すべての学校訪問を行っている。また、先日は県教委主催の中高学習指導研究協議会の機会をいただき、秋田西中学校と新屋高校の授業を参観する機会をいただいた。学校訪問や研究会における授業参観の機会を通して、小中高通じて考えさせられるのが、先生方の言葉である。例えば、生徒が目を輝かせたり、真剣に話し合ったり、一つの活動に集中して没頭して取り組む授業のすべてに共通するのが、担当する先生の厳選された、あるいは戦略ともいうべき言葉かけである。授業の狙いに迫る主発問、学習の進め方や作業の手順を的確に伝える指示、要点を押さえた授業内容の説明、生徒の成長を的確にとらえ称揚する先生の発言など、50分の授業時間を1分たりとも無駄にすることなく、学習場面を適切につなぎ合わせる教師の言葉が、生徒の学習意欲を高め、あるいは学習内容の理解や定着を促す原動力ではないかと考えている。一方、学校訪問で残念だなと思う場面がある。生徒の表情が優れない授業では、先生方の発言が指示なのか、発問なのか、説明なのか、あるいはフレンドリーな余談なのか、まったく区別がつかないという状況が小中学校で見られる。このような授業が多い学校ほど、大変残念ではあるが生徒の実態として、うちの子たちは考える力がない、だとか、表現力に乏しいというマイナス面を強調することが多い。学習指導要領の改訂に伴い、言語活動の充実の必要性について新たにリーフレットを作成して周知を図っているところであるが、確かな学力を育成するための生徒の言語活動や言語環境の基盤は先生方であると考えるので、学習に取り組む生徒に対する意識を常に持って、言葉を磨く教師でありたいものだと自戒を込めて申し上げたい。

②板書のあり方について

板書と言うまでもないが、学習の中心や要点を明確にする機能を持ち合わせるものと考えている。時間の経過とともに得られた情報を羅列

する、単なる記録板でないことはいうまでもない。日ごろから教材研究等で教材を吟味することはもとより、校時の目標の明確化、評価の場面での明確な位置づけなど、実態に即して指導過程における要点を的確にとらえ、生徒の理解を深めるためにも、板書はどうあればよいのか、このことに対する問題意識を高めることが、確かな学力を育むうえで欠かすことができないポイントではないかと考えている。

いずれも、イロハのイのような基本的なことではあるが、我々、教員として自分自身に問いかけていきたいことではないかと考えている。

二つ目に、これは教育委員会からのお願いだが、インターネットを通したトラブル、いじめ等の防止についてである。私自身も10月に入りiPhoneにして、最初使えるかと不安だったが、息子、娘の使うのを見て自分でもどんどんはまり、今や家族とグループを組んでLINEをやっている。東京に娘がおり、息子は高校3年生で、妻と4人でグループを組んだのだが、私があまりうるさいので息子は自ら退会してしまった。私も10月のはじめまでは、誰かにこの話をされても何の事だかさっぱりだったが、頭の固い我々世代も容易にはまれる手軽なソフトも出ている。

これに関して、秋田市内の小中学校、高等学校等でも若干憂慮すべき事象もあるので、この1点についてお話ししたい。県教委が小中学生対象に調査している、携帯電話・スマートフォン・インターネット調査によると、全国的な状況と同様にLINE等によるネットを介した人間関係のトラブルが増加する状況にあり、教育委員会としては大変憂慮している。先ほどのLINEでは、グループ内でのやり取りであるため、外部から目が届きにくく、またグループ内の閉ざされた空間を作るという特性がある。悪いわけではないが、利用の仕方を間違えると大変な事例もある。いくつか紹介すると、思ったことを気軽に書き込んでしまうために、言葉の解釈の違いから誤解が生じたり、感情を露わに

した言葉により心を痛めたりなどのトラブルが発生する。あるいはメッセージを読むと既読の文字が相手の画面に表示され、すぐに返事をしないと、既読無視とされ仲間外れにされる。仲間外れの方法として、グループから強制的に退会させられるLINE外しや、友達一人だけを除いて別のグループを立ち上げるなどがある。またグループ内の心無い者が仲間の書き込みや動画、画像を勝手に外部に流して、知らないうちに自分の情報が外部に流れてトラブルになったというケースもある。

きちんと使えば問題はないが、何分判断力の低い小中学生、あるいは若干の高校生にとって、弊害や危険性も心配されるところである。本校においても、急速に変化するインターネット環境を踏まえて、実態把握に努めていただくとともに、生徒一人ひとりが今以上に、より確かな判断で情報を活用できるよう、情報モラル指導の一層の充実をお願いしたい。4月に配布した、「秋田市学校教育の重点目標」の中にも、こういった学校における危機管理について、ネットトラブルの防止や食物アレルギーの対応、情報管理など具体的な施策を掲載しているので、校務分掌の会議等で少し見てもらうなど、お願いしたい。今秋田市はどのようなことを考えているのかがわかると思う。

おわりに、先ほど進路指導の話でもあったが、まもなく11月になり進路指導も佳境を迎える時期となる。さらに月が進むと来年度の入学選抜の業務など、多忙な時期に差し掛かってくる。先生方にはくれぐれも健康に留意され、生徒一人ひとりのためにご尽力いただくことをお願いして総評としたい。

3. 質疑応答

(小玉教頭) 先ほど大山先生からネットトラブルのお話があったが、本校の状況はどうか。

(生徒指導部畑沢) 本校の状況は、残念なことに携帯電話やツイッターに、法に触れるような

写真を掲載して、謹慎処分になった生徒がいる。それ以外にも、法には触れないが非常識な写真を掲載した生徒もいた。外部からの連絡を受けてそれが発覚するケースもあり、それをたどると芋づる式に発覚するケースが本校だけでなく他校でもかなり出てきている。対策として、SNSなどを他人に見られないようカギをかけるようにしている。他校での取り組みなどもあれば教えていただきたい。

（大山指導主事） いま先生が話された内容は、他校でもよく聞かれる。他県では、あえて飲酒している写真を掲載してばらまくとか、出会いのきっかけとなってトラブルを招いている。特に高校生くらいになると体格や精神の発達を伴うので、一般の成人と同じようなことを想定して対応する事案も出てこようかと思う。禁止とか、こちらで状況を把握して手を打つという指導は当然あるが、心を育てる指導というのを引き続きいろいろな場面でしてやらないといけない。特に身近な報道の例を挙げて、身近に迫る危険性については特に注意喚起してほしい。禁止、身近な話題、心を育てるという三方面作戦というか、指導していったらどうかと思う。

（小玉教頭） ほかに質問は。

（商業科 保坂） 私が感銘を受けたものが、「言葉を磨く」という指導について。私自身、言葉を大切にしようと思っているが、自分があまり言葉を磨いていなかったと反省させられた。

また、学習場面をつなぐのが先生の言葉というところ。授業の中にいくつかの展開があって、その展開と展開を結ぶために言葉をつなぎ、生徒の中に先生が思っていることをイメージさせる。よく生徒たちに、なんでこれがわからないんだ、と思ってしまいが、それは自分の言葉が足りなかったのだ、磨いていなかったのだと勉強になった。

（小玉教頭） 指導主事の先生方に、授業参観で気づいたことがあればお願いしたい。

（林指導主事） 本日、地歴公民を参観させていただいた。グループ活動やベーシックなさまざまなスタイルにチャレンジしていただければと思う。

（鈴木主査） 先生方の授業を参観させていただいたが、板書に関して、校時の目標、課題を意識されていた授業があった。また、地歴公民では、「なぜ」という問いのある課題があった。子供たちに考えさせていくうえで学習課題はとても重要であると思うので、そこに私たちは力を入れてやっていかなければならないと思っている。

（大月主査） 私は小学校の教諭だが、自分の教え子が3年生で立派になっている姿を見て、先生方の指導は素晴らしいと感じた。

4. 副校長より

（副校長） 佐藤先生からは授業研修の持ち方についてご指導いただいた。全員の教員が参加する形や、シートを利用したワークショップ型という提案もあった。またこれまで、商業科にウエイトを置いた研究会を実施してきたが、普通教科にウエイトを置いたやり方があっていいというお話もあった。いただいたご意見を基に今後再構築していきたいと思う。授業改善については、生徒主体の授業をいかに作り出すか、そのためにもこのような研究授業は必要だろうというお話であった。小中での学びの在り方を活かした授業、小中での学びがあって生徒は高校で学んでいくわけなので、小学校のやり方、中学校のやり方を下敷きに高校での授業を展開していく必要があるのではないかとということだと理解した。また、生徒の良さに甘えているのではないかとのご指摘もあり、授業改善ということに関して今後見直していかなければなら

ないと改めて思った。

大山指導主事からは、教科指導について「言葉を磨く」という指摘があり、深みがある言葉だなと感じた。かつてはサテライト方式で講師が画面の向こうで語るという授業のやり方があったが、いつの間にか廃れてしまった。予備校で聞くと、生の授業とサテライトの授業を両方行うが、生の教師の生きた言葉の授業の方が生徒に受けが良い。それは生徒の反応を見ながら教師が言葉を変え、やり方を変えていくからということであった。我々は生の生徒に接しているので、言葉を磨くということは重要な課題の一つかと思う。あわせて板書の仕方、基本の基本だが改めて考えてみたい。最後にソーシャルネットワークのリテラシーの問題をご指摘いただいた。本校に存在する問題もあり、年齢制限をかけるかという議論も最近出てきているが、我々のできる範囲の中で注意を促して指導していきたいと思う。実態把握も行っているので細かいことから始めていきたい。

本日はお忙しいところ、貴重なご意見をいただきありがとうございました。

平成25年度商業科教員指導力向上研修 県外視察報告

商業科 小 西 一 幸

1 県外視察のねらい

「県外の商業高校（科）を視察し、商業科教員の授業改善に活かす」（平成24年度引用）ことをねらいとした研修の一環である。今年度は兵庫県立神戸商業高校と京都大学で行われた全国高等学校情報教育研究大会についての報告をし、本県商業教育の様々な場面に活かしてほしいと思う。

2 視察報告

〇兵庫県立神戸商業高等学校（以下神戸商業）

神戸商業高校は、平成24年度に創立135周年を迎えた日本最古の商業高校である。慶応義塾創始者の福沢諭吉の協力のもとに設立されたこともあり、校内には福沢諭吉ゆかりの品々が展示されており、商業教育の礎の一端を見ることが出来る学校であった。

今回の訪問の目的は平成25年6月9日より学校の向かい側にオープンした常設店舗である「神戸商業高校実習店舗 infini（アンフィニ）」の視察である。



いかにいう思いから訪問した。

店舗で取り扱っている商品は、神戸商業高校の生徒が地元企業の方々と協力して作った商品

や近隣高校で開発された商品である。訪問した日は夏季休業中にもかかわらず朝から生徒が店頭で立っていた。普段は放課後に店頭で立ち販売実習を行っている。実習環境が整っている背



景には、地元の起業家の協力、自治体や学校同窓会との連携が十分にできている点が挙げられ

る。店舗で取り扱っている商品が売れ残っている場合は協力元の業者で一括買い取り（もしくは返品）、広報活動等では学校と地域の産学連携協議会が設置されているため情報交換を適宜行うことができる。また、他校開発商品



を扱うことで、神戸商業高校の拠点としてだけではなく地域の学校の拠点としても機能している点についても魅力的である。実習店舗の活動のみならず、接客マナーの研修の一環として地元にある大手百貨店での販売実習にも取り組んでおり、活動の範囲が広いことが窺える。

話を伺って感じたことは、「神戸商業高校が地域を必要とし、地域からも必要とされている学校である」ことであった。神戸商業高校のように地域全体を巻き込んだ取り組みは、商業教育が地域活性化の起爆剤になるものであると感じた。

ぜひ本県商業教育においてもこのような県全

体を巻き込む拠点設置を考え、地域を巻き込んだ取り組みを企画したいものである。

○第6回全国高等学校情報教育研究大会 (京都大会)

i 概要

日時 平成25年8月9日(金)～10日(土)

会場 京都大学

目的 全国の情報教育関係者が一同に会し、講演、研究発表、協議、情報交換をとおしてこれからの教科「情報」の在り方および課題解決の方策を探り、実践的に指導力向上を目指す。

ii 内容

8月9日(金)

- ・基調講演「文と理を結ぶ情報教育」
講演者 東京大学名誉教授 西垣 通 氏
- ・ライトニングトーク
- ・ポスターセッションによる授業実践例

8月10日(土)

- ・分科会1
- ・分科会2

iii 感想

今年度より各学校において新教育課程が本格的にスタートしている。商業科における情報教育ではCOBOL言語からJava言語への移行、電子商取引の新設など大幅な方針転換が図られた。そのような中で、商業科の情報教育発展のヒントを探るべく「情報」での取り組みを参考にしようと思い、この研究大会に参加した。

平成15年度からスタートした教科「情報」は今年度でちょうど10年の節目を迎え、商業科と同様に大幅な方針転換が図られている。

今までは「情報A」「情報B」「情報C」の3科目編成であったが、新学習指導要領では「社会と情報」「情報の科学」の2科目編成となった。

商業科設置校では、「情報処理」を代替科目としている高校もある中で、改めて商業科の情

報教育と教科「情報」との共通点や棲み分けをはっきりさせる必要がある。

研究大会全体の印象として、非常に個性的でエンターテインメント性あふれる感じであった。中でも、2日間の研究発表内容をダイジェスト形式で伝える「ライトニングトーク」やポスターセッション形式の研究発表など自由度の高い発表方法に目を奪われた。



「スポーツ栄養学について」



講師：大塚製薬株式会社 スポーツ医学博士
山内 亮平氏

日時：平成25年7月8日（月）

15：45～16：45

場所：会議室

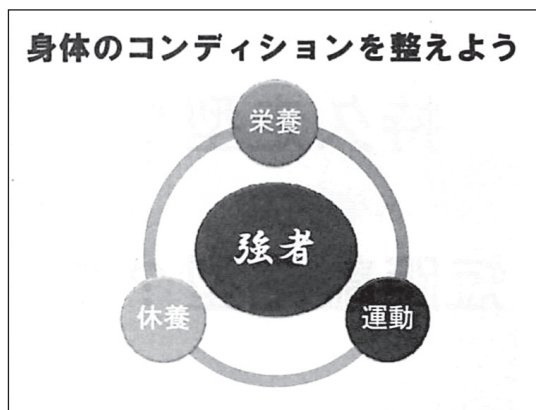
■目的

「スポーツ栄養学」の観点から、適切な栄養補給の仕方や食生活の在り方などの食に関わる知識を深め、生徒に対して適切な食事指導ができるように研修する。

□トレーニングとコンディショニング

トレーニングとコンディショニングは何のためにするのか？

→ 怪我と病気を予防し試合で力を発揮するため



<トレーニング5大原則>

- 一. 全 面 性 の原則
- 一. 個 別 性 の原則
- 一. 漸 進 性 の原則
- 一. 意 識 性 の原則
- 一. 規 則 性 の原則

□試合とは

技術・体力の試し合いであり、試すための体は食べた物でできている。

※毎日食べたもので体は作られているため栄養素の高い食事が大切である。

□体力とは

体力とは行動体力と防衛体力に分けられる。

体 力	
行動体力	防衛体力
○ 筋力	○ 免疫機能
○ 敏捷性	○ 体温調節
○ 巧緻性	○ 自動調節能力
○ 瞬発力	
○ 筋持久力	

□筋力のバランス（筋繊維組成）

筋力のバランスによって持久走型と短距離走型に分けられる

速筋繊維(fast twitch)…糖分をすぐエネルギーに変えることができる筋力

短い時間しか活動することができない ex. 短距離、投擲

遅筋繊維(slow twitch)…酸素を多く取り込んでエネルギーに変える ex. マラソン

※日々のトレーニングによりの筋力バランスは変化する

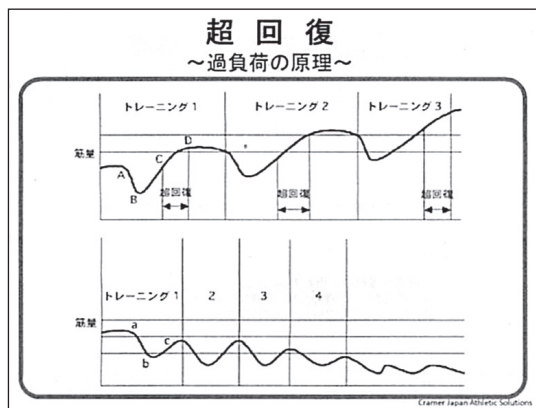
□筋肉痛の原因（損傷・炎症説）

筋収縮により

→ 微細な損傷（細胞）

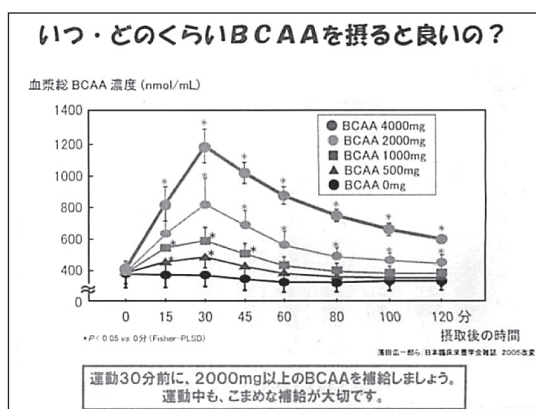
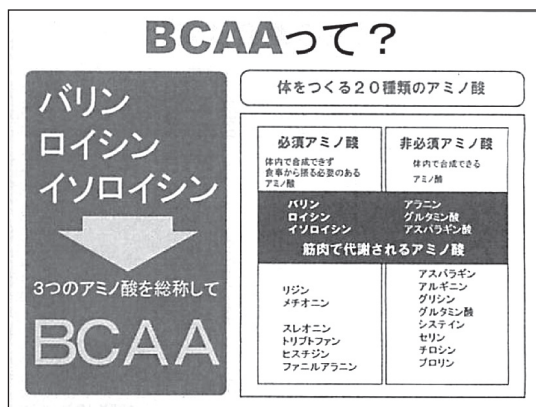
→ 炎症反応（タンパク質分解）

→ 筋肉痛



□筋肉は何から出来ているか？

タンパク質とアミノ酸で構成される。アミノ酸のなかでも特にBCAAが重要。



BCAA＝バリン・ロイシン・イソロイシンの三つのアミノ酸の総称
必須アミノ酸（体内で合成できず、食事から摂る必要がある）

※スポーツ選手の筋肉のコンディショニングに大切な栄養素

特徴 ①筋肉を構成する「材料」

②筋肉の「エネルギー源」

③筋肉の「コンディションをサポート」

※筋肉の損傷を抑え、筋タンパク質の損傷を抑える働きがある。

運動30分前に2000mgのBCAAを補給するのが効果的

□基礎代謝量と一日のエネルギー必要量

基礎代謝量を調べてみましょう

年齢（歳）	男	女
10～11	37.4×体重	34.8×体重
12～14	31.0×体重	29.6×体重
15～17	27.0×体重	25.3×体重
18～29	24.0×体重	23.6×体重
30～49	22.3×体重	21.7×体重
50～69	21.5×体重	20.7×体重
70以上	21.5×体重	20.7×体重

例えば…（17才、体重75kgの男子の場合）

$$31.0 \times 75 = 2,325 \text{ kcal}$$

身体活動レベルとは…

身体活動レベルとは、日常生活での基本となる活動レベルを生活や仕事、運動の内容により3段階に分けたものです。

身体活動レベル	低い (I)	ふつう (II)	高い (III)
1	1.5 (1.40～1.60)	1.75 (1.60～1.90)	2 (1.90～2.20)
安静	生活の大部分が座位で、静かな活動が中心の場合	座位中心の仕事だが、職場内での移動や立位での作業・接客等、あるいは通勤・買物・家事、軽いスポーツ等のいずれかを含む場合	移動や立位の多い仕事への従事者。あるいは、スポーツなど余暇における活発な運動習慣をもっている場合

15～69歳における身体活動レベルの活動内容
※1～7歳ではⅡのみ、8～11歳ではⅡ、Ⅲのみ、12歳以上はⅠ、Ⅱ、Ⅲ

*1 代表値、（ ）内はおよその範囲
*2 () 内は、activity factor (AT) 各身体活動における単位時間当たりの強度を示す数値、基礎代謝の倍率で表す（代表値：下図～上図）
*3 フォックス基礎代謝学【第2版】より作成

基礎代謝基準値 × 体重 = 基礎代謝量

基礎代謝量 × 身体活動レベル

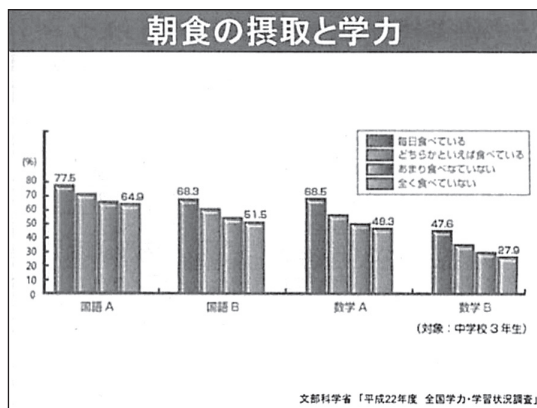
= 一日のエネルギー必要量

□朝食と体力レベル

朝食欠食率（高校生18%）が増加傾向にある。朝食欠食は疲労感ややる気がおきない、低体温や熱中症になりやすい、作業能力を低下させる、といった症状が現れる。

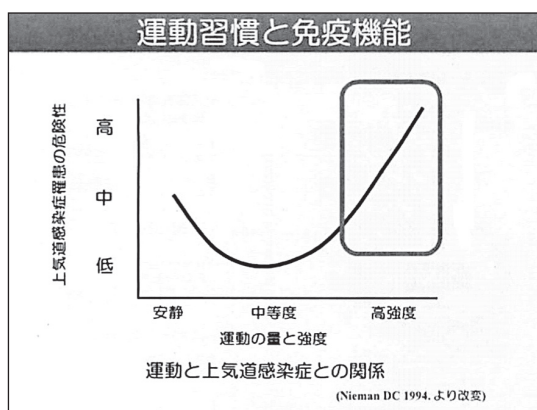
何を食べているかも重要でおにぎり一つ（炭

水化物のみ) などでは食べてないのと一緒にである。バランスのとれた栄養素を補給することが大切。



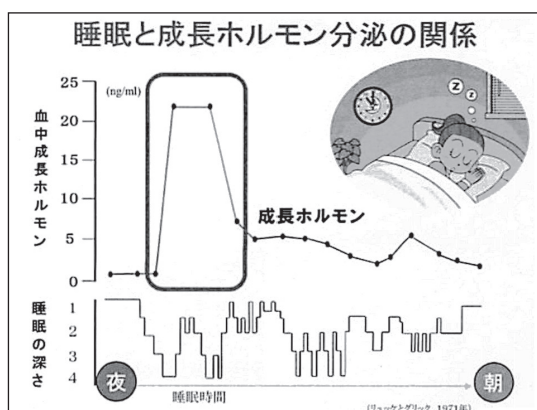
免疫

高強度の運動をすると免疫機能が下がる。アスリートは日々のハードなトレーニングにより防衛体力が低下している傾向にあるため風邪を引きやすい。



睡眠と成長ホルモン

22時から2時までが成長ホルモンが多く分泌される睡眠のゴールデンタイム



<質疑応答>

質問1

問：怪我を防ぐための栄養素やトレーニングについてアドバイスを頂きたい。(宮塚)

答：ミネラルバランスを保ちながら（サプリメントの併用がおすすめ）基本的な体のコンディショニングを整えることと体の柔軟性を高めることが大切。トレーニングでいうとインナーマッスルを鍛えることが効果的である。

質問2

問：練習後、夕食を摂るまでに時間が空いてしまう生徒の栄養の取り方はどうしたらいいか(小林克)

答：栄養補助食品（カロリーメイトやソイジョイ）または補食を持ち歩くクセをつけさせることで夕食までの繋ぎをさせる。チームで栄養補給の時間を設けているところもある。

「インクルーシブ教育について」

講師：秋田市教育研究所指導主事
佐藤 玉緒 先生

日時：平成25年12月9日（月）

14：00～15：00

場所：会議室

1 インクルーシブ教育システム

平成17年、中教審により特殊教育から特別支援教育への転換が提言された。インクルーシブ教育は、ここからさらに転換が図られるものではなく、国連総会で採択された「障害者の権利に関する条約」に基づいた制度である。現在は、障害者基本法、障害者虐待防止法、障害を理由とする差別の推進に関する法律など国内法が整備されている段階である。

障害のある子どももいない子どもも同じ場で学ぶシステムがインクルーシブ教育だが、高校では入学試験が行われるため知的な幅が少なく、意識する場面は少ないかもしれない。しかし小中学校では、特別支援学級・通級指導教室・特別支援学校を、子どもの実態と保護者の要望とのすり合わせのなかで選択することになる。どんな子どもも同じ場で学ぶことを保障するためには、我々が今までやってきたことが通用しない場面もあり、授業方法の改善や校内でのシステム構築が求められる。

2 インクルーシブ教育システムの構築

高校には特別支援学級も通級指導教室もないため、習熟度別学習、少人数クラスなどで対応していくことになる。状況に応じて、授業中または放課後に個別指導を取り入れることも必要になるだろう。

まずは、授業のユニバーサルデザイン化を意識しなくてはならない。具体的には板書では左上から右下に書く、1時間の授業内容を黒板1

枚に残す、など教師間で統一したルールを設けたい。その他にも、生徒に対してどういった支援が必要か具体的に考えてほしい。

また、秋商の生徒が障害児施設や特別支援学校に赴き学び合いの機会をもつ、交流学习の機会を設けることも検討してはどうか。障害者が排除されないという障害者基本法の理念を、先生方が子ども達に背中を示してほしいと思う。我々には共生社会の担い手を育てていく義務がある。発達障害は100人に6人いると言われるが、言い換えると100人に6人は障害のある子どもをもつ可能性があるということである。障害を排除することを生徒に教え込んでいけば、その生徒が将来障害のある子どもをもったとき、どうやって育てていけば良いのか迷うことになる。もともと子どもは誰とでも分け隔てなく接することができる。壁をつくるのは大人であり、大人は子どもから学ぶことがたくさんある。

秋商のなかで特別支援教育がどのくらいできているかを見直し、特別支援コーディネーターを中心に情報を共有し合いながら学校全体で問題解決に向かってほしい。特別支援に限らず、



生徒指導その他の校務においても、同僚の抱えている悩みに敏感でありたいものである。

3 特別な支援を必要とする生徒の事例

「広汎性発達障害」という診断名が廃止され「自閉症スペクトラム」になるなど、発達障害の診断名はわかりづらい部分がある。診断名はその子どもの置かれている環境や診断時点の状態で変わることもあり得ることを確認しておきたい。

また、障害がある子どもへの関わり方はもちろん大事だが、障害のない子どもへの関わりが学級づくりという面では最も重要であると言える。例えば、自閉症の子どもは場面によって教師の指示に食い違いがあると教師を信用しなくなることがある。指示事項に一貫性を持たせるためにも、障害のない子どもへの接し方を軽視してはいけない。

自閉症の子どもに配慮すべき点として、具体的には以下のような点が挙げられる。

- ・自分の持ち物に必ず名前を書かせる。
- ・教科書等の整理の仕方を教える。
- ・机上のどこに何を置くかを教える。
- 以上のことは、環境が新しくなる1年生で行うことが重要。
- ・全体に統一した指示をする。周囲がやるようになるとその子もやる。
- ・教師が話すだけの授業はわかりにくい。適宜キーワードをメモさせるなどの活動を取り入れる。
- ・できれば写真、絵を使うとよい。
- ・自分で時間を読みスケジュール管理をすることが苦手であるため、手助けが必要。
- ・言葉通りの意味にしかとれないため、冗談は通じない。
- ・指示は具体的に行うが、段階的に言葉を抽象化していくことにより順応を図り、うまくいった方法があれば共有していくとよい。

一つの事例を紹介したい。通信制の高校に通

うある生徒は、人との関わりに問題を抱えていたところ、本で読んだアスペルガー症候群の症状に自分があてはまるとして自ら相談の申し込みをしてきた。親も交え面談をし経緯を聞いたところ、小学校4年生くらいの時期に診断名がついたにも関わらず、本人には伏せていたという事実が明らかになった。本人は、自分はずっと人との関わりで悩み何度も自殺を考えていた、と苦しい思いを吐露し、事実を隠していた両親を責めた。



実際、発達障害の人は自殺を考えることが多い。アスペルガーだと伝えることが重要なのではなく、苦手なことを認識させ、うまくやれる方法を教えることで人と関わる力を持てるようになる。悩んでいる子どもには、何が問題なのかを確認し、障害があるかもしれないと思われる場合はどんなところで困難を感じているのか、自分たちと違うところはどこかを把握し、うまくいく方法を教えてあげてほしい。適切な方法に挑戦し、その積み重ねができていけば、さらに色々な物事の見方を伝え、考えさせることができる。

自閉症の子どもは、コミュニケーションが取りづらい、視覚、聴覚、触覚、嗅覚が過敏、など集団生活を営むのに困難な特徴もあるが、決して特別な存在ではない。市内の高校にも該当する生徒が複数いるし、世界的に有名なコンピューター・ソフトウェア会社では自閉症の社員が活躍している。その独特の発想で生活は便利になり、私たちも恩恵を受けている。障害があることが悪いのではないということを、ぜひ伝えていってほしい。

授業改善のための研修（商業科）

商業科主任 保 坂 徹

今年度始めに、以下の目標を掲げ商業科会で周知を図って授業改善のための研修に取り組んだ。

1 目 標

- ・ 日本一の商業高校を目指し、商業科の授業改善を図る。
- ・ 商業科会で、年次研修（教科研修）の報告の機会を作り、全県的な指導の共有化を図り、学び合う体制を作る。
- ・ 定期的に研究授業を行い、教員の指導力向上と授業内容の共有化を図る。
- ・ 年次研修などの計画的な研修のない臨時講師の先生の研修機会を作る。
- ・ 新教育課程で実施予定の授業を研究し、共有化を図る。

2 取 組

- ・ 商業科会での取組

定期考査期間に商業科会を開き、各担当授業の実践状況と課題とを感じていることを共有する機会を作った。

のべ20科目を開講しており、コースごとや生徒の状況に応じて内容を変えているため、各担当者が抱える課題は多くあり、その担当者の取組状況を共有できた。

来年度は、進度の確認レベルの話し合いから、授業の内容や指導方法などについての話し合いをしていきたい。

- ・ 授業改善のための研修

今年度の新しい試みとして、若い教諭の先生たちに世話役をしてもらい、講師の先生たちに指導案を作成し、研究授業をする実践を行った。

このねらいとしては、教諭の先生たちが年次研修などで得た知識を講師の先生たちに授業を通して伝えられるのではないかと考えたからである。

指導案の作成などに多忙感があったものの、日々の授業をお互いに見直す機会になったのではないかと感じた。

世話役	授業者	日時	クラス科目	授業内容
小西 一幸	佐藤 俊平 佐藤 大	5/28(火) 5/29(水)	2 A B 原価計算 1 A B 簿記	直接原価計算 現金勘定
小林 克	倉光 徹 鎌田 修明	7/12(金) 7/12(金)	1 C 情報処理 2 C D 原価計算	VlookupとHlookup関数 部門別原価計算
石田 雄哉	田中 孝志	7/11(木)	1 B 情報処理	システムソフトウェアについて
櫻庭 咲子	佐藤 大 佐藤 俊平	10/29(火) 10/30(水)	1 A 簿記 2 A B 原価計算	5 伝票の記帳 直接原価計算

勝平中学校2年生の授業体験報告

商 業 科

1 実施に当たって

勝平地区小・中・高・特別支援学校連絡協議会では、お互いに連携し多様な教育活動に取り組むことで、小・中学校9年間を見通して継続した学習方法・学習内容の定着や、生活習慣の形成に務めている。

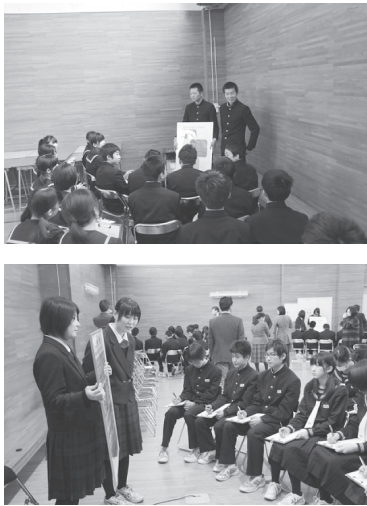
勝平中学校と秋田商業高校は、毎年2月に中学校2年生を招き、商業科の授業体験を通して商業高校（商業科）への理解を深める取組を継続している。

2 日時及び場所 日時 平成26年2月20日（木） 午前10時～11時40分
場所 秋田商業高校 2階講堂

3 参加した生徒 勝平中学校 2年生 103名
秋田商業高校 3年生 12名（流通経済コース）

4 授業体験（テーマ：地域の経済を考える）

担当 畑沢、保坂、菅原、佐藤大

活 動	名活動の内容	様 子
高校生の考えた活性化案でポスターセッション	流通経済コースの3年生が「地域経済」の授業で取り組んだ「地域活性化案のポスター」を使ってポスターセッションをした。 高校生（6グループ）は、(観光) (食) (教育) (駅前のにぎわい) などの観点で、現状と問題点を調べ、自分たちの解決策をポスターにまとめている。 講堂内に6つのブースを作り、高校生を中学生が囲むようにして約10分間の発表と質問を5回繰り返した。始めは緊張気味であったが、繰り返して行く中で、高校生は発表にも慣れ、中学生は、高校生の発表を真剣に聞きながら、メモを取り鋭い質問も出た。後半になるにつれ、お互いに笑顔になっていった。	
地域経済を考える	中学生を4人ごとのグループに分け、高校生の発表を参考にしながら、自分たちで課題だと感じていることを付せん紙に書き込み、それをワークシートに貼りながら話し合いを行った。 高校生も積極的に中学生のグループの中に入りアドバイスをして、活発な話し合いが行われた。	

中学生の視点で感じていることを引き出し、課題を焦点化したり、解決の視点を広げたりすることができた。

終わりにグループ内で自分の考えをまとめて発表する時間を作った。



5 中学生の感想から

授業後のアンケートでは、授業の内容が「よくわかった等」が99%、「よくわからなかった等」が1%。授業の内容の難易度は「難しかった等」が63%、「難しくなかった等」が37%と、おおむね本校での授業内容を難しく感じながらも楽しく理解してくれたようである。

商業科目授業体験アンケート 勝平中学校2年生 103名

H26. 2. 20

1 授業の内容を理解できたか

よくわかった	53人(51.5%)
だいたいわかった	49人(47.6%)
よくわからなかった	1人(1.0%)
全くわからなかった	0人

2 授業内容は難しかったか

難しかった	5人(4.9%)
少し難しかった	60人(58.3%)
あまり難しくなかった	36人(35.0%)
全然難しくなかった	2人(1.9%)

3 授業内容に関心が持てたか

関心が持てた	81人(78.6%)
少し関心が持てた	20人(19.4%)
あまり関心が持てなかった	2人(1.9%)
全然関心が持てなかった	0人

4 先生や高校生の話が理解できたか

よく理解できた	48人(46.6%)
だいたい理解できた	53人(51.5%)
あまり理解できなかった	2人(1.9%)
全然理解できなかった	0人

5 感想（抜粋）

- ・高校生になると考えることが現実的だなと思いました。難しい内容でもかみくだいて分かりやすく説明してすごいと思いました。秋田の現状についても考えることができたので良かったです。
- ・エコについて発表した班の説明が1番わかりやすかったです。どの班も資料が見やすかったのですごくいいと思いました。
- ・高校生になるとおもしろい授業があることが分かりました。今日体験した授業はおもしろかったし、わかりやすかったので楽しかったです。中学生では考えないことを高校生になると考えることになるので「すごかったいいなあ」と思いました。先輩達の考え方もすごかったいいし、どうしたらそのような考え（疑問）がでてくるのかなと思いました。私も高校生になったら今日の先輩達のような「カッコいい高校生」になりたいです。
- ・今日の授業で、地域経済について知らないことがたくさん分かりました。秋田を活性化させるためには、若者や高齢者にあった施設を創ったり、交通機関を利用しにくる人を増やすことが大切だと分かりました。秋田を活性化させ、他県からたくさんの人が来て「秋田って楽しい」と思ってもらえる県になってほしいと思いました。
- ・身近な秋田のことで、様々な視点から考えることができました。ですが、共通で出てきたことは「交通手段」でした。秋田の「交通手段」を改善すれば、いろいろなことが解決できると思いますが、それがむずかしいんだなあとも思いました。私はよく秋田駅に行くので、もっと学生にもやさしい料金で遊べる、行けるようにしてほしいです！！
- ・秋田がもっと活性化し、他の都道府県から人が集まるような魅力的なものが1つでもあればいいと思いました。また有名店なども進出してくれば秋田の活性化につながると思います。
- ・普段の授業よりも難しく、楽しい授業となったと思います。付箋を使った授業だと発表しやすく、とてもたくさんの意見を出せるのでいいと思いました。
- ・高校生の話や表がとてもわかりやすかったです。今の秋田の課題や、それに対する改善策もくわしく聞けて良かったです。
- ・高校生がまとめたポスターを見て地域の経済について考えることができたのでとてもおもしろかったです。
- ・私たちも総合的な学習の時間などに自分でまとめ発表するので、今日のこの時間のことを生かしたいと思います。
- ・秋田県の現状などをネットでも簡単に調べられるそうなので、機会があったら調べてみたい。
- ・秋田の「食」や商業施設についての興味がわきました。
- ・あきたこまちがあまり知られていないということにびっくりしました。県外へのアピールが必要だと思えたり、加工食品にするとということもわかりました。
- ・商業高校で学んでいることはどれも新鮮で、興味深く感じられた。「高校ではこんなことをしているのかあ…」と、驚きもした。高校に以前よりも関心をもてたので、今回の授業体験は、良い経験となりました。
- ・秋田の経済について、これだけ多くの課題がある中で、自分たちで改善すべき点を見つけ出せるということは、すごいことだなあと思いました。少子高齢化が進むこの秋田で、私たちのような学生が秋田を活性化させるためにできることはなんなのか、ということを考えさせられました。
- ・ふせんを使うことによって班のみんなでどんどん意見を出すことができた。ふせんスゴイ。高校3年生の人たちのポスターのまとめ方がとても見やすく分かりやすかった。発表の声の小さい人もいたけれど全体的に聞きやすかった。発表の仕方などまねしてみたいと思った。
- ・高校生の皆さんの話を聞いて自分たちの調べたことがない話をしてくれて、とても楽しく勉強することができました。また、自分達の考えをまとめる時、高校生の皆さんに聞きながら考えをまとめることができて良かったです。高校での勉強の内容も知ることができて良かったです。

勝平中学校・秋田商業高校中高連携 英語科情報交換会

平成26年2月26日（水）16:00～16:50

於：勝平中学校

記録者：宮塚 信博

I 自己紹介（敬称略）

勝平中学校 土橋光輝（3年担当）、天野由希子（1年担当）、佐藤静（2年担当）

秋田商業高校 戸田潤子、須藤あさ子、舟木志保、宮塚信博／大関由理（研修）

II ねらいの説明（土橋）

- ・前年度までの概要説明と今年度の方向性の提示
- ・全英連のコンセプト紹介
- ・教科の内容連携
- ・生徒についての情報交換

III 提言

（須藤）連携開始から携わっているが、毎年高校側の出前授業が負担であり、また、中・高双方にどのようなメリットがあるか考えていた。そこでそれに代わるものとして情報交換会を提案した。有意義な話し合いができることを期待している。

IV 協議

＜秋田商業高校 → 勝平中学校＞

（戸田）・中学校でのつまずきのポイントは何か。

・中高のつながりは文法ではないか。

（土橋）・語順が問題である。日本語と英語の違いや前置詞の使い方の指導に苦労している。

・疑問文の作り方では、be動詞と一般動詞の区別ができていない。

（須藤）・導入は口頭練習か。

・何回も行っているのか。

（土橋）・その通りで、パターンを覚えさせてから、規則性を説明している。

・ペアで何回も言わせている。短い記憶から時間が経過しての定着が難しい。

・流れやスパイラルで繰り返し、取り組ませている。

・英問英答の練習を行っている。

・主語と動詞の見つけ方を図にして生徒に提示している。

（土橋）・単語に関してはどうか。

（須藤）・基礎的な単語は身に付いていると実感している。しかし、高校では、発展的な語彙力は思うように身につけていない。

(土橋) ・身近なものではないのが問題ではないか。

(天野) ・1年生では単語テスト活動に一番時間を費やしている。朝学習や課題テストが中学校ではたくさんあるので利用している。クリアできない子は残してやらせている。しかし、このことが英語嫌いにさせているとも考えている。

- ・宿題で書かせたり、音で覚えさせたりもしている。
- ・音と書くことのつながりでつまづくことが多く、練習不足につながる。

(佐藤) ・単語の練習を繰り返しさせていて、テストの前後での指導も行っている。
・言葉の種類を理解させるために、フラッシュカードを品詞により色分けしている。
・語順はくわしくはやっていない。教科書の表現を何回も読んで定着させている。
・つまずきとしては、長い文章だと主語と動詞を見つけにくいし、混乱する。
・好きそうな題材を使って、練習させている。

<勝平中学校 → 秋田商業高校>

(土橋) ・高校では、英語で授業する上でのネックは何か。

(戸田) ・ペアワークなどでは、最近の生徒は抵抗感がなく、ALTとのTTにも積極的に取り組んでいる。

(宮塚) ・英語での授業は標準を意識しているので、上位層には刺激を与えられず、下位層には細かな指導ができない。
・授業中に積極的な発言をしても、考査などの成績に結びつかないことが多い。

(土橋) ・中学でも同じである、高校入試を意識するためである。進路を考えるとクリアしていかないと支障がでる。

(土橋) ・中学校は読むことと書くことが中心ではあるが、高校ではどうか。

(須藤) ・スピーキングでは基本的なことしか言えない。教材のレベルが高くなり、生徒の実力との格差が生まれて、本当の力を伸ばせていないかもしれない。

(舟木) ・入試問題でも自己表現が多くなってきている。考査でも作文として出題している。



(舟木) ・中学校での取り組みを知りたい。

(天野) ・1年生はALTを利用して手紙を書かせている。文法項目を終えるごとにやっている。テーマは簡単にして、3文書させる。ALTにコメントを書いてもらおうと生徒はとても喜んでいる。全員提出し、発表も行っている。

(舟木) ・添削はどうしているのか。
・文法ミスは気にしないのか。
・思ったことを書かせるのか。

- (天野) ・ALTが全てやっていて、直してくれる。A、B評価もしてくれる。
- (佐藤) ・2年生では容赦なく直してくれる。教科担任としては書いていることにコメントを言って生徒に返却している。
- (土橋) ・3年生は、条件をつけて自由に書かせて提出する。細かいミスにささらず返す。
・高校入試を意識させて、限られた時間の中で、辞書を使わずに正しい英文を書かせる指導をしている。
・辞書を使ってよい授業と高校入試への意識の切り換えを徹底させている。
- (土橋) ・高校ではどうなのか。
- (舟木) ・時間がないので、長めの文は書かせられない。
- (土橋) ・減点しているのか。
- (舟木) ・過度の場合は減点している。論理性を重要視している。
- (土橋) ・高校入試の英作文はどう評価しているのか。答えられる範囲でお願いしたい。
- (須藤) ・高校によって独自の評価基準を設けている。

V あいさつ

- (土橋) 刺激になる内容で、これを足がかりにして高校と情報交換をしたい。
今後もこういった機会を継続していきたい。
- (大関) 研修部としては、今年はこのような形で交流ができてよかった。英語科をきっかけに今後
どういう交流ができるか話し合いを続けていきたい。

VI 交換会終了後

- (須藤) ・会の中で、音と単語の関係という話があったが、小学校でそれを教えるべきというのが秋田商業のALTの持論である。
- (土橋) ・小学校の指導側の問題でもあるが、小学校では指導していけないことになっているので、フォニクスを期待することは難しい。英語が教科化されればなおさらだと思う。中学校では学習指導要領に明記されているので、中学校でやることになる。あくまでも小学校では楽しく英語を学び、親しむことが大事である。
・教科化されると、英語嫌いが増えることが心配される。



授業公開週間の実施について

研 修 部

趣 旨 お互いに授業を参観し合うことにより、指導力の向上と授業改善を図る。

テ ー マ 基礎学力定着のための授業改善

期 間 1 回目 6 月10日（月）～14日（金）

2 回目 11月18日（月）～22日（金）

※18日（月）～21日（木）5・6校時 保護者授業参観

実施方法

○期間中、全職員が自教科1時間以上、他教科1時間以上、計2時間以上の授業を参観する。

○フリー参観形式。1時間内に複数の授業を参観してもよい。

○参観時には『参観用紙』を持参し、参考になった点や気づいた点などを記入の上、参観後、授業者へ直接渡す。

○指導案作成は特に求めないが、作成した場合は、参観者と研修部に渡す。

○時間割を時間割変更黒板に掲示する。期間中、自習などでどうしても公開に適さない授業がある場合には、赤で×を記入する。

○出張、年次などで授業変更が生じる場合は、変更後のクラス・実施場所などを直接書き込む。

実施後の反省

本校では、今年が実施2年目となる。昨年度は年1回の実施で、参観率は50%だった。今年度は2回実施したが、参観率は1回目54.7%、2回目46.2%だった。アンケート未提出者を参観しなかったと見なしたパーセンテージであるので、実際のパーセンテージはもう少し上がるものとみられる。（アンケートを提出しなかったけれど授業参観をしていた先生もいた。）そうだとすると、決して高い参観率とは言いがたい。来年度以降も続けるとしたら、参観率を上げるためにどのような方策を立てなければならないのかを検討する余地が十分にある。

2回分のアンケート結果を次ページ以降にそのまま掲載したが、授業参観者の感想が授業を見合うことの有用性を何より雄弁に物語っている。

今年度は統一テーマを設定して実施したが、それがどれだけ意識化され、浸透していたかを検証しないまま終わってしまった。テーマに関しては、基礎学力の定着も無論大事だが、能力のある生徒への対応も必要ではないかという反省点も挙げられた。

平成25年度 校内研修
「第1回授業公開週間」アンケート結果（回答者数32/53）回収率60.4%

H25. 7. 18
研 修 部

1 授業参観をした教科（科目）と時間数を記入してください。

自教科

時間数	人数	分母を32とした場合の%	分母を53とし、アンケート未提出者21人を参観0と仮定した場合の%
1	15	46.9	28.3
2	5	15.6	9.4
3	3	9.4	5.7
4	2	6.3	3.8
14	1	3.1	1.9
0	6	18.8	50.9

他教科

時間数	人数	分母を32とした場合の%	分母を53とし、アンケート未提出者21人を参観0と仮定した場合の%
1	12	37.5	22.6
2	8	25.0	15.1
0	10	31.3	58.5

※ 授業参観者数

自教科参観者26人 + 他教科のみ参観者3人 = 29人 (54.7%)

参観した教科・科目

教科	時間数	科目
商業	35	簿記10, 情報処理7, 会計4, 原価計算4, 会計・課題研究3, 総合実践3, 会計実務1, マーケティング1, 課題研究1, ビジネス基礎1
国語	18	現代文6, 国語総合4, 国語表現1, 古典1, 国語6
英語	9	英語Ⅱ6, リーディング2, 英語Ⅰ1
地歴公民	9	現代社会5, 世界史3, 社会1
数学	5	数学A3, 数学B1, 数学C1
理科	4	科学と人間生活3, 理科総合1
家庭	3	家庭3

※参観しなかった理由

- ・参観しようとしたら自習だった。
- ・大会直前・直後で、この時期は全く動きがとれない。
- ・授業が空いているときは、授業準備をはじめ、学級や部活動に関することにあてざるを得ない。実際のところ、土・日も必要に応じて出校し、それらに充てている状態である。
- ・木・金が東北大会があり、他の月～水の空き時間は他の業務をこなしていたため。
- ・他教科の授業は実習生もしくは自分の授業と重なっていたため。

2 実施の仕方について、ご意見がありましたらお願いします。

- 参観に適さない授業をマークさせるのは良いと思った。
- 自教科内研修（研究授業）を教科内で計画的にやってみてはどうか。
- 自由に参観できる期間があるのは、勉強になるため、とても良いと思う。
- 見る、見られるが、平素から当然の状態になるのが望ましく思う。
- やはり他の職員が来室する以上、通常よりは準備が必要であるが、勤務時間内において授業準備に費やせる時間が人によって違うため、一律の実施は難しい(抵抗を感じる人がいる)のではないかな。
- 自由に参観できるこの方法はいいと思う。

- 今回のやり方でよい。(4)
- 実技系の科目と座学系の科目では参観の仕方を分けなくて良いのか？
- 教育実習生がいる期間の実施は避けるべきではないか。
- 臨時講師の先生方は必ず自教科1、他教科1の計二つを見学する。(ベテラン教師を手本にしてもらう。)
- 採用試験前に教科主任(教頭も)は必ず研究授業をする。年間1~2回。(後進の育成のため)
- 教材研究などがあり、なかなか行くのは難しい。
- 実施の仕方はよいと思う。見学しやすい雰囲気だった。



3 実施時期及び期間について、ご意見がありましたらお願いします。

- 1年に2回はきついと思う。1回で十分勉強になるし、今後も無理なく続けられるのではないかな。勉強になるとはわかっているが、プレッシャーがある。
- いつ実施しても忙しい時間だが、期末テスト後、夏休み前は少しゆっくり見られるかも知れない。
- 可能であれば、通年でできたらと思う。
- 年間1週でよいのでは。
- 教育実習があったので、職員が動きやすいのは他の期間かも知れない。
- 個人的に、空き時間での参観は2コマが限度だった。2週間くらいあれば…と思う。
- 適切な時期だと思う。(2)
- 年に2回するのであればちょうどよいと思う。
- 全職員にとってタイミングが良いという時期はないので、仕方がないと思う。
- 生徒の公欠が多数でないときのほうがいいのではないかな。
- もっと期間が長くても良いのではないかな。



4 自分の授業に取り入れてみたいと思った授業内容を紹介してください。

- 作業のさせっぱなしではなく、途中で一度まとめて後半につなげる。
- グループを見てまわり、個々にアドバイスする。
- 家庭科については、活動的な学習だったので、数学ではなかなか大変であるが、活動的な内容を取り入れてみてはと考えた。
- 授業されている先生の知識が豊富である。歴史的背景、当時の様子、出来事のすべてがよくわかり、とても面白かった。生徒を惹きつける話や知識を磨いていきたい。
- その時間にやる予定を最初に板書する。
- 生徒との会話から引き出し、クラス全体のものにしていく技術。
- 板書のきれいさのあった国語表現の授業。
- 英語でのペアワーク。
- 英語Ⅱ……導入時に生徒に活動をさせる。
- 若い人の勢いのある授業は大半参考になった。今一度、メリハリのある授業をせねばと感じた。
- グループ学習。
- 進度別の目標設定。
- 英語での板書の仕方や授業の展開方法。
- 動きのあるウォームアップ活動。
- 声が大きく、生徒が楽しそうに授業を受けていた。

- 生徒をランダムに指名して、教科書を読ませること。→ 生徒を「動かす」授業につながるのでは。
- 理解度の高い生徒に説明役をさせているのが、落ちこぼれを作らない工夫として大変効果的だと思った。
- 板書の工夫（大きく使う）。
生徒を指名して身体で表現（実演）。
図（色づかい）。
- 取り入れることはできないが、あるクラスの情報処理で、ある生徒に先生がつきつきりだったのがよかった。
- 英語の授業で行っているフラッシュ型教材の活用。
- 黒板の使い方は人それぞれなので、他の先生方の板書を自分も取り入れたい。
- プリントの活用。1時間毎に区切った（ポイントをおさえたもの）わかりやすいものを準備すること。

5 今後自分の授業で改善したいと思っていることがありましたら記入してください。

- 話し合う場面。
- 自分の考えを述べる場面をどう取り入れていくか。
- わかりやすい授業にするために、試行錯誤している。
- 4技能のバランスのとれた活動を組み立てる。
生徒の弱点を補強する活動をさせる。
楽しんで取り組める学習方法を工夫する。
- 黒板の使い方、遅れ気味な生徒への対応、意欲を持たせ続ける授業。
- 板書の工夫。
- 授業のかたい雰囲気改善したい。
- コンピュータ機器を使用した講義の授業の仕方について。
- 生徒を引きつける話術。発問のやり方。
- 教材研究をはじめとする授業の準備をじっくりとしたい。
- 生徒の興味を喚起するような導入をしたい。
- 生徒からの授業アンケートなど、生徒目線での改善があれば良いと思う。
- 教科書で教える授業を心掛けたい。
- わかりやすい板書。
少しずつでも課題を与えて、家庭学習の習慣を付けさせる。
- 生徒に「考えさせる」授業をしたい。（答えを暗記する学習ではなく）
- どこまで英語を使って授業を展開できるか。
- 発問をいかにして行うか。それによって生徒が頭をフル回転させるようにしたい。
- 生徒が自発的に情報交換したり、会話したりする活動を取り入れたいが、そこに至るまでの活動をどのようにすべきか思案中。
- 生徒を引きつける授業にしたい。
生徒を「動かす」授業にしたい。
- 年間通してのテーマの設定と授業へのとりこみ。（キャリア教育との関連）
- もっと生徒の発言を増やせるようにしたい。
- 商業科の授業は検定試験があるため、一方的な授業になりがちであるため、機会をみてグループ学習を活用しながら「考えさせる」授業をしたい。
- 生徒の発言をもう少し取り入れたいと思っている。



平成25年度 校内研修
「第2回授業公開週間」アンケート結果（回答者数28/52）回収率53.8%

H26. 1. 15
研 修 部

1 授業参観をした教科（科目）と時間数を記入してください。

自教科

時間数	人数	分母を28とした場合の%	分母を52とし、アンケート未提出者24人を参観0と仮定した場合の%
1	18	64.3	34.6
2	3	10.7	5.8
3	2	7.1	3.8
0	5	17.9	55.8

他教科

時間数	人数	分母を28とした場合の%	分母を52とし、アンケート未提出者24人を参観0と仮定した場合の%
1	13	46.4	25.0
2	3	10.7	5.8
3	1	3.6	1.9
0	11	39.3	67.7

※ 授業参観者数

自教科参観者23人 + 他教科のみ参観者1人 = 24人 (46.2%)

参観した教科・科目

教科	時間数	科目
商業	10	総合実践、経済活動と法、簿記、会計、マーケティング、情報
国語	11	国語表現、国語総合、古典、現代文
英語	10	英語Ⅰ、リーディング、英語Ⅱ、英語Ⅰ（コミュニケーション）
地歴公民	5	現代社会、世界史A
数学	9	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A
理科	1	理科総合A
家庭	2	家庭総合
保健体育	3	体育、保健

※参観しなかった理由

- ・余裕がなく、自分の次の授業の準備をすることで精一杯だった。
- ・他教科の授業が、自分の授業時間と重なっていたため。
- ・年次等で参観する時間がなかったため。
- ・出張、学外勤務、また体調不良による通院のため。
- ・自分の空いている時間に病院等に行ったため。

2 実施の仕方について、ご意見がありましたらお願いします。

- 今回の方法でよいと思う。
- 授業改善につながるので今後も続けてほしいと思う。
- もう少し見たかったがコラボレーションフェアで空き時間に思わぬ仕事が増え、2時間しか見られなかった。
- 継続は力なり。
- 追い込まれないと見学に行けない、私たちの意識が悪い。
- 表に印をつけても見えていない先生がいる。



3 実施時期及び期間について、ご意見がありましたらお願いします。

- 商業（簿記）に関しては、日商簿記検定の学習範囲が終わる前の方が授業見学としてはよいと思う。
- 2期に分けたのはよいと思う（参観しやすい）。

○この期間でよい。

○考査前は演習中心になりやすいので、避けた方がよいのではないかな。

4 自分の授業に取り入れてみたいと思った授業内容を紹介してください。

○参観した授業によってそれぞれ雰囲気が異なっていた。生徒の持つ雰囲気なのか、先生の持ち味なのか、教科の性質なのか、恐らくそれらすべてが関わって、授業の雰囲気が決まってくるのかもしれない。自分の授業の雰囲気作りについても参考になった。

○まとめることが苦手な生徒（学力、能力不足）に対して、独自のプリントによるノートの代わりになる教材の活用は、それによりまとめやすくなっていると感じた。

○プリントのファイリングの徹底。

○群読、グループ活動といった、生徒が主体的に活動する内容。

○T Tの授業の進行方法。

○言葉のキャッチボール、会話を広げていくこと。

○電子黒板を活用しているところ。

○効率のよい説明の仕方が参考になった。

○英語を使っのペアワークやグループでの活動のさせ方。

○黒板一面を使ってわかりやすく書くこと。生徒と対話しながら書くこと。

○短くてもよいので、毎時間書いて提出する課題を与える。

○授業中の生徒の興味関心の場面の作り方や、一人の生徒の発言を全体のものにする指導法。

○リズム（間）。

○少人数の場合の、輪になっての語学学習。

○少人数（2クラス解体）ではやはり指導が行き届くと感じた。例えば実習などではクラスを半分に分け、片方ずつ指導するという方法もよいと感じた。

○定着の活動で、様々な指示がテンポ良く出され、生徒が飽きず楽しそうに取り組んでいた（英Ⅱ）。

○考え方のポイントを解説時に加え、生徒に注意を促す板書になっており、後から見返すときに目印になっていて良いと思った（数Ⅰ）。

○コミュニケーション文法指導（英Ⅰ）や、内容把握に本文の内容にあった音読（国語表現）。

○電子黒板を活用することで、板書の時間を短縮できる上に生徒も見やすいため、ノートを整理しやすい。



5 今後自分の授業で改善したいと思っていることがありましたら記入してください。

○生徒が生き生きと活動する授業。

○授業についてこれない生徒に対する指導方法。一斉指導の中でどうすべきか。

○生徒を動かし、考えさせる授業をさせたい。そのために教師はどのような声掛けや行動をとると効果的かを考えたい。視覚教材を活用したい。

○プリントの管理を徹底させる。

○秋商の生徒に必要なとされる学力をつけるためにはどうしたらよいのかを模索中である。

○知識の定着をどのようにして行うかを考えていきたい。

○板書の仕方と発問の仕方。

○思考を促す授業にしたい。知識を増やすのではなく、知恵をつけさせたい。

○遅れ気味の生徒と、進んでいる生徒の差を埋めながら授業の進捗を確保する指導法。

○もっと柔らかい雰囲気の授業。生徒が安心して、落ち着いて学習に取り組めるような授業作りを目指したい。

○生徒が寝ない、自然と起きていたいと思える授業。

○生徒とのやりとりを多く取り入れながら、読みを深める指導をしたい。

○生徒への話し方にもう少し抑揚をつけたい。そうすることで理解度のアップにつながると思う。



平成25年度 先輩講話（記録）

進路指導部

ねらい 本校の先輩方を招き、高校時代の経験や卒業後に体験したことをHR教室などで話していただき、次週（3月10日～19日）から始まる進路対策期間と新学年での進路意識の高揚を図る。

1 日 程 平成26年3月7日（金） 5・6校時 13：30～15：20

2 先輩に依頼した講話の内容

- ①高校時代の頑張ったことや、心がけて努力したこと。
- ②会社や大学に入って感じたことや経験したこと。
- ③高校生に伝えたいこと。

3 来校する先輩（予定）

No	所 属 な ど	名 前	在学時の部活動等	案内
1	秋田信用金庫本店店長	小松 均（高27）	硬野	畑沢
2	木村建材社長（元PTA会長）	木村 昌永（高32）	剣道	伊藤雅
3	都市クリエイティブ社長	長坂 博行（高33）	硬野	小林克
4	マルシン社長	進藤 文仁（高39）	応援団長	村上
5	秋田畑マネージャー	滝田真奈美（高46）	卓球	鎌田
6	オールホンダ	渡部 大樹（高60）	硬野・流経コース	佐藤大
7	中央大学経済学部	小熊 智明（高61）	硬野・会計コース	櫻庭
8	秋田大学工学資源学部 岩手県立大学ソフトウェア情報学部 秋田市役所納税課	加藤 光（高61） 吉田 伸一（高61） 進藤 貴文（高61）	コンピュータ・ 情報特化コース	小西
9	協和石油（事務）	鎌田 英里（高61）	ワープロ・会計コース	菊池

4 担当及び時間配分（案）

時 間 Projector, Big PAD 部屋担当	2 A B 菅原	2 B B 佐藤俊	2 C P 山本	2 D 文書デ 米澤	2 E・2 F 総合情報P 池田・藤中・宮原	1 年 講堂P 谷内
13:30～13:40 (10)	各クラスで準備					渡辺先生の進路について 長坂 加藤・吉田 進藤貴
13:40～14:05 (25)	滝田	鎌田英	長坂	小松	加藤 吉田 進藤貴	
14:05～14:30 (25)	小熊	木村	渡部	進藤文		
14:30～14:55 (25)	鎌田英	小熊	進藤文	渡部	滝田	
14:55～15:20 (25)	まとめ・振り返り					

5 実施の状況

①企画と依頼

今年度から学年末考査が2月下旬に実施されることに伴い、高校入試一般選抜の採点期間に進路指導部裁量で利用できる時間が設けられるようになった。その時間を活用し、以前からあった「先輩たちの活動や経験を教育に生かせる機会を作ってはどうか」という意見を実現したのが、この度の先輩講話である。

講話をお願いする先輩については、計画が2月になってからと急なこともあり組織的な人選ということではできなかったが、組織の中心になって働いている経験豊富な40～50代と、20代の大学生を含む生徒たちと年代の近い若い先輩たちというグループに分けて構成することにした。経験豊富な世代は、元PTA会長の木村昌永先輩（木村建材社長）をお願いし何人かの先輩を推薦をもらい、若い先輩方については、2年部の先生を中心に先輩の推薦をしてもらった。

依頼から実施までの時間が短時間で、本校で初めての試みであるにもかかわらず、ほとんどの先輩たちが趣旨を理解し快く賛同くださったことは誠にありがたいことである。

②先輩講話の様子

当日は13時に本校会議室に集まっていただき、趣旨と流れを説明する開会行事を行った後、担当の生徒たちが先輩たちを各自の教室にお連れし、先輩講話が始まった。

はじめは互いに少し緊張気味であったが、写真やプレゼンテーションなど視覚的にもわかりやすい仕事の話をしてくださったり、高校時代の先生や部活動の話になると笑いも起こり、終始和気あいあいとした雰囲気であった。

仕事や人間関係などの課題をどのようにして乗り越えたのかや、仕事での失敗を成功につなげる術など、先輩が経験した気持ちを共有できたようである。



③先輩講話で印象に残った言葉 ～生徒の感想から～

「高校時代に秋田で一番の賞状をもらっても、全国ではコテンパン。上には上がいることを知る大切さ」

「自分のやりたいことをとことんやる」

「自分の限界を自分で決めない」

「人とのつながり（縁）を大切にする」

「社会に出てからわかる、高校の友人のありがたさ」

「社会にでてからは、何をしたかより、誰としたかが大切」

「秋商に入って良かったと、歳を追うごと思う」



④秋田さきがけ新聞に掲載（抜粋）

同市河辺の木村建材店の木村昌永社長は、優秀な社員の特徴として「指示された以上の仕事をする」「謙虚で時間を守る」などを挙げ、「会社はその人がいかに誠実かを見ている。そうしたことを念頭に入社面接に臨んでほしい」とアドバイスした。

中央大学経済学部4年の小熊智明さんは就職活動の体験談を披露。企業と一緒に働きたいと思われる人材として、身だしなみやあいさつの大切さを強調。「全て高校時代に先生に言われたこと、先生の言葉を素直に聞いてほしい。」と呼び掛けた。

2年の野田開斗君は「身近な卒業生の話は考えさせられるものばかりだった。伝えてもらった言葉を進路に生かしたい。」と話した。



小論文を書く

進路指導部

- 1 **ねらい** ・現代社会の課題に興味をもたせ、その中にある原因を分析し、解決の方向を理論的に表現できる力を養う。
 ・相互評価形式で行うことで、学年やクラスの生徒たちが同じ課題で競い合い、良い作品から刺激を受けて切磋琢磨する。

- 2 **日程** 【テーマ発表】 2月24日（月）「食の安全について」
 【調べる】 2月24日（月）～ 3月6日（木）
 【書く・評価する】 3月7日（金）

校 時	生徒の活動	場所	備 考
1 校 時	小論文を書く	HR	字数は600字
2・3 校時		会議室	用紙に整理番号を書き、生徒名をカットする。 （例）A組の用紙は、B組が評価するなど別のクラスを評価するようにする。
4 校 時	小論文を評価する	HR	4人グループになり、観点別に評価する。 一つの用紙について4人が評価し、点数化する。

3 小論文相互評価要領

- ①国語辞典を用意し、4人グループを作る。
 ②一人が一枚ずつ添削し100点からの減点法で採点。

0点以下になったら0点のまま。

◆評価の観点（A～G）

A 書かれている分量（540字以上書かれていればOK）。

※400字以上540字未満 → **マイナス10点**

※400字未満 → **マイナス30点**

B 「食の安全」に関する話題・事件が具体例として挙げられている。

※これが書かれていなければ、**マイナス20点**

※日時・場所・経緯などの概要を詳しく書けるように必ず調べておくこと。

C Bに関する問題点・原因・課題が書かれている。

※これが書かれていなければ、**マイナス20点**

D Cに対する自分なりの主張・解決策の提案が書かれている。

(例) ～すべきだ。

～しなければならない。

※これが書かれていなければ、**マイナス20点**

・・・これが書かれていなければ小論文ではない。

E Dの主張・解決策の提案を読み手に納得させる説明（理由・具体例など）が書かれている。

(例) なぜなら～

たとえば～

※これが書かれていなければ、**マイナス20点**

F 誤字・脱字・話し言葉・間違った言葉の使い方の有無。

(例) ×～じゃなく → ○～ではなく

×なので → ○だから

×でも → ○しかし（だが・けれども）

※誤字・脱字一か所につき、**マイナス3点**

※「～です。」「～ます。」などの敬体を使っていれば、**マイナス10点**

※「思う」「感じる」一か所につき、**マイナス5点**

・・・これを書いてしまうと感想文・作文になってしまう。

G 字の丁寧さ

※字が読みづらい文章は、**マイナス5点**

③ ②を踏まえてワークシートに記入する。一枚のワークシートを4人で回す。

(厳しくコメントしてほしいが、傷つけるようなことは絶対に書かないこと!!)

④ 次の人に答案とワークシートを渡し、班の他の人が見終わった答案とワークシートを受け取り添削する。

⑤ 時間がきたらその時点での平均点を記入し、回収・終了。



ビジネス実践『AKI SHOP』

商業科 櫻庭 咲子

1 はじめに

本校では平成14年度から総合的な学習の時間を活用し、全校生徒が「ビジネス実践学習」を行っている。「ビジネス実践」は学校全体を模擬会社に見立て商品開発や販売、地域貢献活動など行いながらビジネスを体験的に学ぶ活動である。

この活動の目的は、社会人基礎力を身に付けることであり、社会人基礎力は一步踏み出して失敗しても粘り強く取り組むことのできる「前に踏み出す力」、疑問を持ち、考えることのできる「考え抜く力」、多様な考えを持つ人とともに、目標に向かって協力することのできる「チームで働く力」の3つの力と定義している。



2 今年度の取り組み

(1)第6次産業化プロジェクトへの参加

AKI SHOPは秋商生が中心となり活動していたため、『地元の人たちと連携して秋田を活性化する』という本来の目的が果たせていなかった。そこで、昨年度から秋田市で企画した第6次産業化プロジェクトに参加している。

第6次産業プロジェクトとは、今までの第1次産業・2次産業・3



次産業を一つの産業とみなし取り組むことである。

〔第1次産業〕×〔第2次産業〕×
〔第3次産業〕＝〔第6次産業〕

昨年度よりこのプロジェクトに参加しているが2年目ということもあり、市場調査の方法を工夫し、その結果をマーケティングの手法を生かして分析し、商品の提案を行った。農産物の選定を金足農業高校、パッケージデザインを秋田工業高校、商品の企画販売を本校が担当してできた試作品をAKI SHOP当日に販売した。その試作品を購入されたお客様の感想・意見を踏まえてさらに見た目や味の改善を行い、完成した商品は平成26年春からコンビニなどで発売されることとなっている。

(2)外部講師を招いて企画検討委員会の開催

昨年度より本部が商品開発に協力していただける企業を事前に確認したり、新たに協力いただける企業を模索し、企業交渉を行っている。学校に招いた企業の前で各班がプレゼンを行い、企業の方から審査してもらうシステムにしたことにより、各班が行う企業との電話交渉、商品試作を引き受けていただく企業の選定などの負担が少なくなっている。

この取り組みにより生徒は実社会



に近い体験ができ、商品化の難しさを実感するとともに、すべての班が商品を開発し、販売することができたので達成感を味わうことができた。

(3)AKI SHOPの活動を広報し、外部イベントに参加

AKI SHOPの組織の中に広報班を設け、「AKI SHOP＝物売りイベント」という外部からの印象を払拭するとともに、一年を通した授業の集大成であることをアピールした。

広報班の主な活動は年間を通じて各班の活動風景を写真に収めるとともに、撮影する際に班の活動内容取材し、AKI SHOP当日は商品のフォトギャラリーをセリオン会場でスクリーンに映し出し、来場者にビジネス実践の活動を広報した。

また、地域の企業が行っている「サンワ市」



や地元農業協同組合が主催する「ふれあいフェア」、湯沢市で行われた「うどんエキスポ」等にも参加し、AKI SHOPの活動を広く秋田県内外の人にPRするとともに、開発商品の販売を行い様々な地域の方に商品を購入してもらうことができた。

(4)土崎地域のクリーンアップの実施

クリーンアップを行うことで日頃お世話になっている土崎地域への奉仕、お客様への感謝の気持ちを示すことができるため、生徒240人がゴミ拾いを行うことにした。

また、今年度で12回目の開催となるAKI SHOPは商品を販売する生徒の人数が多すぎるため、お客様が商品を購入しにくいという課題があったが、クリーンアップを行うことでこの課題を少しは解消できたようである。このような活動は単年度で終わっては意味がないため、

来年度も継続していきたいと考えている。

③今年度を振り返って

今年度のAKI SHOPは11月2日（土）にポートタワーセリオンを会場に開催した。今年度は秋田の郷土芸能を広く県内外の人にPRするためにステージイベントを開催したり、大館曲げわっぱや組子細工などの伝統工芸品の体験コーナーを会場内に設けることで、地域の魅力をこれまで以上にアピールすることに努めた。AKI SHOP当日はステージイベントや販売ブース、体験コーナーに多くのお客様にご来場いただき、大盛況のうちに終えることができた。

前年度までの反省・課題を踏まえて新たな活動を行い、改善を図ったが終えてみるとまだまだ改善の余地があることが分かった。ビジネス実践「AKI SHOP」は来年度も総合的な学習の時間を活用して継続していくことになっているため、生徒が将来就職した際にそれぞれの会社で活躍できるように社会人基礎力を養うことができる活動にしていきたいと考えている。

また、来年度は13回目の開催となるためこれまでの年1回の開催ではなく、生徒が地元企業と共同開発した商品を通年販売できるようにしていきたいと考えている。



25年度キッズビジネスタウンの取り組み

商業科 石 田 雄 哉

平成25年11月1日・2日に、今年度で6回目となるキッズビジネスタウンが行われた。晴天に恵まれ、1日は勝平小と出戸小の児童180名が参加し、2日は県内小学校等から一般参加として約200名の子ども達が参加した。

1 キッズビジネスタウンの目的

キッズビジネスタウンとは、小学生以下の子ども達が市民となり、「みなで働き、学び、遊ぶことで、ともに協力しながら街を運営し、社会の仕組みを学ぶ」教育プログラムである。小学生が模擬的に設定された街で、市民としてハローワークに行き仕事を探し、実際に働いて給料を得て、その給料で買い物を体験する教育的行事である。

本校生徒はキッズビジネスタウンの企画・運営を行う。当日は社長として子ども達の先頭に立って模擬店舗での販売などを一緒に行い、商業高校で学習した「社会の仕組み」や「ビジネスの仕組み」を子ども達に教えることを通して、学びを深めることができる。企画や運営を通して教えることの難しさや、ビジネスに必要な知識を客観的な視点から知ることができるものである。

このような活動を通して、ビジネス実践全体の目標である「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を体得し、社会人基礎力を育てることを目的としている。

2 今年度の活動

今年度は希望する2・3年生の生徒が30名となり、昨年度より10名ほど少ない人数でのスタートとなった。当日、公欠になる生徒は除いたため、全員が確実に1店舗を責任を持って取

り組める体制であった。

また、例年通り、1年生もスタッフとして協力してもらい、10月から各店舗に配属した。

①スケジュール

- ・5、6月：趣旨説明、基礎学習
- ・7月：運営店舗の模索、決定
- ・夏休み：各企業での研修、交渉
- ・9月：求人票、業務マニュアル作成
- ・10月：本番に向けた準備、1年生への指導
- ・11月：本番、後片付け、報告会

②今年度の店舗

今年度開設された店舗は以下の通りである。

年	組	番	氏 名		店 舗 名
3	A	1	磯 部 流 綺	男	清掃局
3	A	39	村 上 彩 香	女	市役所
3	B	27	佐 藤 奏 愛	女	ハローワーク
3	B	32	中 村 華 菜	女	税務署
3	C	4	小野寺 貴 也	男	病 院
3	F	9	佐 藤 泰 良	男	消防署
3	F	27	佐 藤 美保子	女	警 察
2	B	11	保 田 駿	男	銀 行
2	D	20	正 木 央	男	裁判所
2	A	41	舩 谷 来 夢	女	ギフトショップ
2	E	15	三 浦 圭 斗	男	おもちゃ・駄菓子屋
2	E	17	安 田 拓 海	男	車 屋
3	B	16	羽 場 友 作	男	テレビ局
3	B	31	谷 藤 穂 香	女	写真館
3	C	5	金 澤 直 大	男	サッカー教室
3	F	14	石 井 歩 美	女	ネイルサロン
3	F	42	安 田 莉 乃	女	ファッションモデル
2	F	8	櫻 庭 和 久	男	ラジオ局
2	B	13	秋 本 葉 月	女	アイス屋
2	B	35	堀 裕 奈	女	ラーメン屋
2	C	20	三 浦 大 輔	男	ババハラ
2	C	31	佐 藤 みのり	女	カフェ&ベーカリー
2	E	16	三 浦 幸 亮	男	クレープ屋
2	F	1	石 川 泰 寛	男	きりたんぼ
2	F	3	金 田 和 磨	男	たこやき屋
3	A	33	佐 藤 ち ほ	女	アクセサリ工房
3	A	37	永 澤 菜 奈	女	アロマ工房
3	D	2	甘 野 開 流	男	ハンコ工房
2	D	3	麻 生 睦	男	木工工房
2	F	37	山 崎 紗耶佳	女	出版社（タウン誌）

3 当日の様子



1 日目は、生徒達も不慣れな部分も多かったが、勝平・出戸小学校が事前に学習をしてきてくれたおかげで、スムーズに進めることができた。勝平小学校からの要望により、勝平小は9:00～13:00の活動、出戸小は10:10～14:00の活動となった。

2 日目となると、1 日目の経験を生かしてどの店舗もスムーズにこなすことができていた。1 年生も積極的に活動する様子が見られた。反面、集客が少ない店舗では生徒が持てあましてしまっ、来客された方からも不評であった。

実施後の生徒の感想からは、実際の職業人や小学生から学ぶことが多かったという意見や、自分自身の責任の重さに気づいたという意見、子供達の仕事をしているときの笑顔や商品が売れたときの喜びを感じ取ることができたなどの、成長を感じる意見を数多く聞くことができた。

来場された方のアンケートでは、ほぼ全員の方から満足いただき、来年度も参加させたいという意見をいただくことができた。反面、生徒の元気がもっとほしかったという要望や、メニュー表示や衛生面に対する指摘など、改善につながる意見をいただくこともできた。

また、昨年度は労働時間を1時間に設定していたが、長いという要望があったため今年度は40分に設定した。この点に関しては、働かせる側、働く側ともに丁度良かったようである。低

学年にはまだ少し長いようだが、労働時間を短くしすぎると通貨の流通量が増えたり、回転率が早すぎたりするなどの問題も発生するようなので、40分程度が適切だと感じた。

4 来年度に向けた課題

今年度実施した上での課題について、最後にまとめたい。

①実施時期の早期検討

今年度は勝平小、出戸小ともに学習発表会の時期に重なってしまい、両校に負担をかけてしまった。また他の小学校も学習発表会が多く重なる時期であったため、その点を前年度から配慮、検討していく必要がある。また、前年度中に小学校に打診し、確実に実施できるよう整える必要があった。

②集客・労働者確保の工夫

時間にもよるが、集客・労働者確保の工夫がもっと必要であった。システム会社からのアドバイスで、「店舗名が難しいところには、子供達は行きにくい」「何をしているかイメージできない店舗名は避けた方がよい」ということを伺ったので、その点を配慮させる指導をしたい。また、お客さんがいない店舗で生徒がだらけてしまい、印象がよくなかったのも、その点は生徒指導をしていきたい。

③保護者への仕掛け

保護者アンケートに「保護者が暇である」という意見が複数あり、保護者を飽きさせない店舗・施設や、保護者がお客さんになる仕掛けが必要だと感じた。うまく巻き込むことができれば、タウン内の消費拡大と集客アップにつながる。来年度に向けて工夫する必要がある。

ビジネス実践「エコロジカルビジネス」

英語科 大 堤 直 人

1 はじめに

昨年度までの「ユネスコスクール班」は、今年度から「エコロジカルビジネス班」へと名称を変えた。ビジネス実践の枠組みの中で、よりビジネスに関連したことを行っていくためである。名称が変わったことで、昨年度までこの班で活動してきた生徒の中には戸惑いも見られたが、これまでの良いものを活かしつつ、新たな取り組みに挑戦することもできた。

2 活動目的

エコロジカルビジネス班では年度当初、以下の活動目的を掲げた。これは、持続可能な社会を築こうとする人間を育てる教育（持続可能な開発のための教育＝E S D）を視野に入れたものである。

「企業やNPO法人などとの連携を通して、エコロジカル（生態系保全）とビジネス（商業・経済活動）を両立させた『持続可能な社会』の構築のために行動する力を育成する」

この活動目的に沿って今年度は、エコロジカルビジネス班に所属する生徒が2～5名のペアあるいはグループを作り、それぞれ連携する企業やNPO法人を決めて、その連携先の団体が行っている環境保護活動を学ばせていただき、必要に応じてその連携先を訪問したり、連携先の方に学校へ来てもらったりした。



株式会社マルケンの方から説明を聞く

3 今年度の取り組み

今年度取り組んだことは、以下の三つのものに大別することができる。

(1)外部講師による講座

次の期日に外部講師の方々に来校してもらい、講座を受講した。7月18日には大曲南中学校の2年生28名と一緒に、10月3日には本校の1年生240名と一緒に受講した。

6月27日(木) 「私の出会ったカンボジア」

フォトジャーナリスト 高橋智史氏

7月11日(木) 「地球環境問題について」

アーバンマイスターの会幹事 渡部純氏

7月18日(木) 「環境放射能について」

Gネイチャーコミュニケーション代表

後藤千春氏

10月3日(木) 「環境科学って何だろう？」

秋田県立大学生物資源科学部教授

蒔田明史氏

(2)企業やNPO法人などとの連携

具体的な連携先と、その連携先で行った主な活動は以下の通りである。

- ・株式会社マルケン…廃タイヤからマット等を再生する企業の取り組みを紹介
- ・株式会社コバリン…もみ殻を固めて各種ボードを再生する企業の取り組みを紹介
- ・一般社団法人あきた地球環境会議…「うちエコ診断」「エコすごろく作り」を実施
- ・NPO法人あきた菜の花ネットワーク…秋田県立大学の学園祭でのブースの手伝い
- ・伊藤良治氏…小学生たちと一緒に秋田杉の廃材からリサイクル箸を作成
- ・秋田ユネスコ協会…「外国人による日本語スピーチ・コンテスト」でのボランティア

(3)AKI SHOPでの活動

フォトジャーナリストの高橋智史氏から写真を提供してもらい、事前に「ババヘラアイスを受け取るカンボジアの少女」をテーマとした大きなモザイクアート（下の写真）を作成し、AKI SHOP会場に展示した。時間と労力のかかる作業であるが、その作業を通して生徒たちはグループとしての一体感や達成感を味わったようである。



カンボジアの人たちが現金収入を得ることができるよう秋田名物ババヘラをカンボジアに紹介した高橋智史氏の国際協力活動に触発され、生徒たちは、現地で販売されているものと同じババヘラアイスを会場のセリオンで販売しようとしたが、時間的な問題と、生徒が会場で調理・販売をしてはいけないという制約があり、断念した。その代わりに、急遽、フリーマーケットを行うことになった。エコロジカルビジネス班の生徒たちが物品を持ち寄り、値段を付けて販売した。売上金はフィリピンの台風被災者への支援に充てた。

一方、AKI SHOPとは別に、3人の生徒は、本校で開催されたキッズビジネスタウンに参加し、秋田杉の廃材から箸を作成するブースを担当した。伊藤良治氏の助力により、た



エコはし作成講座で小学生に教える

くさんの小学生が、あらかじめ棒状になった木材にやすりをかけて、自分なりのリサイクル箸を作った。

4 スタディツアーの中止

昨年度申請して受け取っていた助成金20万円を使い、今年度は青年海外協力隊秋田県OB会主催のフィリピン・スタディツアーに2名の生徒を参加させる予定であったが、10月にフィリピン中部を襲った巨大台風の影響により、このスタディツアーは中止になった。訪れることになっていたセブ島の北部が被害を受けたほか、セブ島の空港は支援物資の輸送拠点になった。

このように中止にはなったが、台風の被害を受けた現地の人たちに対して、青年海外協力隊秋田県OB会を通して寄付金を届けることになった。フリーマーケットでの売上金3,500円と、『ユネスコスクールによるESDの実践』等の書籍の印税23,650円を寄付することができた。さらに、2月になってからは、年度当初に出版社から受け取っていた『高校生のための国際協力入門』と『高校生のための地球環境問題入門』の印税11,120円を、フィリピンの子どもたちへの支援金として、秋田ユネスコ協会を通して聖心会へ寄付することもできた。

なお、このスタディツアーが中止になったのを機に、今後、エコロジカルビジネス班として生徒を海外へ積極的に派遣するのはやめることにした。理由としては、「エコロジカルビジネス」に名称が変わり、国際理解・国際協力よりも環境問題を重視するようになったこと、さらに、外部団体からの助成金を得るのが難しくなっていることなどが挙げられる。かつては4人の生徒をアフリカに連れていき、8人の生徒をネパールに派遣したことのあるこの班も、時の流れとともに、変化することを余儀なくされていると言える。

文部科学省委託事業 「特別支援学校のセンター的機能充実事業」に係る研修会に参加して

保健・教育相談部 須 藤 あさ子

- 1 期 日 平成25年8月22日（木）
- 2 時 間 午前10時～12時
- 3 会 場 秋田市文化会館 小ホール
- 4 対象者 秋田市内保育所・幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校の教職員、関係機関等
- 5 内 容 講演「発達障害のある子供への具体的な支援の在り方」
～二次障害の要因への対応も含めて～
(栗田養護学校のセンター的機能充実事業による研修会)
- 6 講 師 国立特別支援教育総合研究所
教育情報班 発達障害教育情報センター
総括研究員 梅田 真理 氏

7 講 演

本題に入る前に

震災などの災害時に障害のある子供たちや
お年寄り、乳幼児などへの支援をどうするか。
行政による支援が始まるには少なくとも2、
3日かかる。自分の周りの地域をよく知ること
が大切。助けて！ 大丈夫？とお互いに言
える関係を作っておく。どんな支援が必要か、
日ごろからまわりに伝えておく。毎年、障害
のある親子の孤独死が起きている。学校の先
生から親に働きかけておいてほしい。

I 発達障害について知る

①発達障害とは

胎生期を含めた発達期に様々な問題が作用し
て、中枢神経系に障害が生じた結果、認知、言
語、社会性および運動などの機能の獲得が障害
される状態を言う。

子供の時期に障害が現れてくるが、基本的には脳の問題。育て方、愛情不足などが原因で後から起こることはない。

②一次障害は様々な障害が重なり合っていることが多い。

ADHD、自閉症、アスペルガー症候群、LD、
広汎性発達障害、知的障害などが重複している
場合が多い。

発達の過程で失敗が多い。できないことが増
える。やりたくてもうまくいかない。からかわ
れたり、排除されたりして、他人との違いに気
付き始める。親は原因がわからず叱り続ける。

本人は自己評価、自信が低下し、二次障害に
つながる場合が多い。

③医学的な検査でわかる障害

ダウン症候群、てんかん等

④医学的な検査でわからない障害

自閉症、知的障害等…発達経過や症状で判断
(障害によって発見の時期が異なる)

⑤広汎性発達障害について

脳の情報処理に障害があり、いくつかの原因
が想定される。

思春期のころに他者の気持ちに初めて気付き
始める

親離れして仲間を求めるがうまくいかない。
友達づきあいにも失敗しがちである。

⑥自閉症について

中枢神経系（脳）の何らかの機能障害

3つの行動特徴による診断

- 1 対人・社会性の問題
- 2 言葉の問題
- 3 こだわりや興味の偏り

特徴は生涯にわたって続く。

感覚の問題（味覚・嗅覚・触覚・聴覚など）

を併せ持つ場合もある。

→ 全般的な意欲低下、自信喪失

⑦高機能自閉症（アスペルガー症候群）

自閉症のうち知的障害の伴わないものをいう。

中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

また、アスペルガー症候群は「知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わないものである。」と定義されている。

⑧ADHD（注意欠陥多動性障害）について

- 不注意（注意力が続かない、うっかりミスが多い、仕事をやり遂げられない、物をなくす）
- 多動性（座っていると手足を落ち着きなく動かす、授業中の離席が多い、騒々しい）
- 衝動性（質問の途中でだしぬけに答える、慎むべきところでおしゃべりする、邪魔する）

ADHDのある子供の思春期

幼少期から多くの失敗を経験している。不注意や軽率さから厳しい叱責を受けたり、仲間から孤立したり…。他者の承認を得られないことに傷つく。焦りと怒りが増す。

反社会的言動、不安の増加

⑨学習障害（LD）について

ア) 子どもの全般的な能力に比べて「読むことができない」「書くことができない」「計算ができない」など特定の能力に問題があり、学習面につまづきがみられる。全般的な知的発達に遅れはないが、特定の能力の習得と使用に著しい困難を示す。

その背景として中枢神経系に何らかの機能障害があると推定される。

イ) LDのある子どもの思春期

わからない、できない、失敗が多い。なぜできないのか分らない。

やる気がない、努力不足と判断されがち。基礎的な練習を繰り返し行うことを要求され、さらに自信、意欲を失う。

Ⅱ 二次障害について

①二次障害

・内在化障害（神経症性症状）

慢性的自己不全感、挫折感、不安、うつ病、強迫性障害を併発する。

・外在化障害（反抗や非行を含む行動上の問題）
施設設備へのいたずら、他害行為、万引き、車やバイクでの暴走、飲酒、喫煙など

②思春期年代の心の発達

- (1)前思春期（10～13歳くらい）母親離れ、仲間集団への加入が始まる。
- (2)思春期前期（13～15歳くらい）母親離れが進み、友人関係に没頭する。
- (3)思春期後期（15～17歳くらい）自分探し、自分づくり。急激な心の変化

健常な生徒にとっても今は自分を確立して世の中に出ていくのが難しい時代。自己さがしからなかなか抜け出せない。30歳までが思春期とも言われる。

以前は高校1年まではバカやっていたても、高2くらいから落ち着いてきて自己を見つめ、高3でじっくり進路に向き合うことができた。今は高2になってもまだ落ち着かず、バカをやっている。高3になって進路を考える時期に直面するが、時間が足りない。発達が1年遅れている感がある。

これらの思春期特有の課題が、二次障害に関係してくることが多い。

Ⅲ 法律の話

・発達障害者支援法（平成17年）

自閉症、アスペルガー、ADHDは障害だと認めた。

・障害者基本法（平成23年）

1) 障害者の定義 第2条第1号

身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む）その他の心身の機能の障害があ

る者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるものをいう。

2) 教育 第16条

国及び地方公共団体は、障害者が、その年齢及び能力に応じ、かつ、その特性を踏まえた十分な教育が受けられるようにするため、可能な限り障害者である児童及び生徒が障害者でない児童及び生徒と共に教育を受けられるように配慮しつつ、教育の内容及び方法の改善及び充実を図る等、必要な施策を講じなければならない。

・障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（H25年公布、3年後施行）

第2項 社会的障壁の除去を怠ることによる権利侵害の防止

（差別を解消するための合理的な配慮をしなければならない。インクルーシブ教育）

☆今までにない早さで法律が変わっている。
世の中の流れに敏感でいてほしい。

Ⅳ 困っていることに気付く

①集団の中で気になる子どもたち（わがまま！自分勝手！しつけが悪い！）

- ・一斉指示に従えない
- ・落ち着きがない
- ・やり取りが一方的
- ・意欲がない
- ・文字の読み書きに誤りが極めて多い
- ・非常にそそっかしく無鉄砲な行動ばかりしてしまう
- ・他者の意図に気付かず友達づきあいに失敗しがち

②本当に「わがまま」？「しつけが悪い」？

実は本人の性格や親の育て方の問題はなく、親も子も一生懸命やっているのに、子ども自身に「発達の特徴」があるために、このような行動やふるまいをしてしまう事が多い。

③困っていること

学業上の問題

対人関係、学校生活上の問題、
二次障害への対応

Ⅱ 困っていることへの対応

①どの年代でも変わらない大切な対応

- ・発達障害について知ること
- ・子どもの困っていることに気付く
- ・対応の仕方を工夫すること

②本人が抱える「特徴」に合わせて、対応の仕方を考える。

障害特性に合わせた対応をすることで、本人が困っている状況を改善することができる。（一番困っているのは本人）

- ・どの段階でつまづいているのかに気付く。
- ・特に苦手なことはどんなことか？
- ・要因となるものは何かを考える。
→ 工夫、試行錯誤を重ね、個々の生徒に合う支援の方法を見つける。

③指導・支援の前に…

- ・言葉がけは短く、やるべきことを具体的に伝える。
注意はその場で！「だめ」なことは「だめ」と一貫した態度で接する。
- ・感情的にならない。
- ・言葉に惑わされないで！
- ・本人のプライドを大切に！
- ・教師はみんなの鏡。教師がすることは他の生徒も注目している。集団でのほめ方、注意の仕方を十分配慮する。
- ・小さなことでも成功体験を大切に！

④教員としてできること：指導上の配慮

- ・学習環境への配慮（持ち物、プリント、ノート、作業時間の確保など）
- ・座席の配慮（本人に合った座席を選ぶ）
- ・ルールを明確にする（全体に示す、基準を明確に、守れたことへの評価）
- ・わかりやすい指示（具体的で簡潔に、一度出した指示は変えない。ニーズに応じてメモにする）

- ・見通しをもって生活する（予定はなるべく文字で知らせる。スケジュール帳、携帯などの利用）
- ・必要なものを忘れない工夫（早めの連絡、メモを取る習慣づけ、忘れたときにどうするか予め確認しておく）

⑤教員としてできること：授業などで

- ・対人関係の配慮（グループでの活動の具体的なルールの明示、役割、活動の流れ、内容）
- ・個別的な配慮（本人の負担感を理解し、孤立しないような声かけや配慮、個別対応）

⑥教員としてできること：評価、試験等で

- ・環境の配慮（テストアコモデーション、合理的配慮、試験会場、時間延長、解答用紙の工夫等）
- ・成績評価における配慮（基準、ガイドラインの作成、教職員での共通理解）

⑦教員としてできること：心理面では

- ・ピア・サポートの活用（本人が孤立しないように協力してくれる級友の募集）
- ・心理的なサポート（具体的な問題解決の方法を一緒に考える。自己理解、SOSの出し方、教育相談室、保健室の活用）
- ・適切な進路選択に向けた早めの指導（ハローワークやジョブコーチ等の活用）

Ⅵ 自立に向けて

①学校を卒業すれば教師が支援の輪からぬける。

頼られすぎないことも大切

②自立に向けて大切にしたいこと

- ・「自分は社会にとって必要な人間である」という意識を持つ。
- ・自分の特徴を理解し、周囲の資源や援助をうまく利用していく能力を身につける。
- ・小さいころから得意なことを認め、苦手さをカバーする方法を教えることが大切。

③ライフスキルを身につける。

- ・社会システム理解
- ・対人関係調整
- ・生活管理

- ・自己理解
- ・余暇活用（一人で楽しめる趣味を持つ）

④外とつながる、地域とつながる

ア）保護者も本人も

自立は本人が望まなければ実現しない。

イ）適切な進路選択

どのような進路であれば自分の特性を生かせるのか。

どんな目標があればがんばって仕事ができるか。

《講演を聞いて》

秋田市内の幼稚園、保育所から高等学校まで幅広い年齢層を扱う教職員を対象とする講演であったが、参加者が多く、発達障害についての関心の高さが窺われた。しかし高等学校からの参加は2校だけで、まだ高校では該当する生徒が少ないか、又は大きな問題とされていないのかも知れない。

3年後には法律が施行され、発達障害を持っている生徒には「合理的配慮」をしなければならないことになる。高校の教職員ももっとこの問題に関心を持ち、入試、定期考査、授業その他の場面での支援の在り方を考えておかねばならないであろう。

また、幼稚園、保育所から小学校へ、小学校から中学校へと進む際に、個々の子どもの障害の特徴や対応の仕方を申し送りすることがスムーズな支援の継続に必須であるというお話があったが、中学校から高校に進学する場合、高校入試があるため、生徒の障害の実態が中学校から高校に伝わらない恐れがある。今後、中学校との連携・協力体制をいかに構築するかが問題だと感じた。

秋田市学校保健大会報告

～防災教育、防災管理等について～

保健・教育相談部 須 藤 あさ子

秋田市学校保健会主催の秋田市学校保健大会に参加してきた。今年は校長部の担当で、中学校についての調査研究の発表だった。高校にも参考になることがあったので、報告したいと思う。

I 趣 旨

生涯にわたり心身ともに健康で、たくましく生き抜く子どもの育成のために、学校保健に関する当面の諸問題について、研究協議を行い、日常指導に資する。

II 主 題

自ら進んで健康づくりに取り組む子供の育成

III 主 催 秋田市学校保健会

IV 日 時 平成25年9月14日（土） 13：30～16：00

V 場 所 秋田市文化会館 大会議室

VI 対 象

- (1)秋田市内の小中学校・高校の校長、副校長、教頭、教諭、保健主事、養護教諭、養護職員、栄養教諭、栄養職員
- (2)学校医・学校歯科医・学校薬剤師
- (3)秋田市教育委員会関係者、秋田市学校保健関係者
- (4)PTA関係者
- (5)その他、学校保健、学校安全関係者

VII 日 程

- (1)受 付 午後1時
- (2)開 会 午後1時30分から午後1時40分

- (3)表彰式 午後1時40分から午後2時まで
- (4)研究・調査発表 午後2時10分から午後3時50分
- (5)閉 会 午後3時50分

VIII 研究・調査発表について

秋田市学校保健会は学校医部、学校歯科医部、学校薬剤師部、校長部、保健主事部、養護教諭部の6つの部からなり、毎年1つの部が発表を行っている。今年は校長部の担当で「～学校現場は今…新たな安全指導・健康管理への対応～」というテーマのもと、次の3つの発表が行われた。

- (1)防災教育・防災管理等の取り組みに関する調査から
下浜中学校 校長 永田 実
- (2)学校給食と食物アレルギー対応について
御所野小学校 校長 平塚 和博
- (3)“つなぐ”知識と周知の大切さ
土崎保育所 技能技師 佐藤 文子
この内、高等学校に関係が深い(1)について報告する。

IX 研究・調査発表の内容について～防災教育・防災管理等の取り組みに関する調査から

下浜中学校 校長 永田 実
秋田県小中学校校長会において中学校部会が設置している委員会の一つに学校経営委員会がある。この委員会では、平成24年度と25年度の研究テーマを「学校教育における防災教育・防災管理等」として研究を行っている。研究1年目の平成24年度は以下の「防災教育・防災管理等に関する調査」を全県の中学校長を対象に行った。

1 防災教育への取り組み状況の満足度を捉える数値調査

- 1) 自然災害から自らの命を守る「危険予測回避能力」の育成
- 2) 教科学習等における自然災害や防災に関する基本的な知識の習得
- 3) 命の尊さや思いやり、緊急事態時の協力の大切さなどの道徳性
- 4) 予知できぬ災害等へ対応するための心構え
- 5) 地域の特性に応じた避難訓練の工夫
- 6) 災害支援者の視点に立ったボランティア活動の工夫
- 7) 救急救命講習等、緊急時に対応するための学習機会の確保

2 防災管理等について震災後に新たに取組んだことや見直したことで課題を感じていること（自由記述形式）

- 1) 防災計画に基づいた災害時対応に関する教職員の共通理解
- 2) 学区内危険箇所と緊急時の安全な避難場所・避難経路の確認
- 3) 施設・設備の安全点検と緊急時対応備品の整備と管理
- 4) 大地震発生時の保護者への引き渡し方法や安否確認の決めごと
- 5) 地域住民との緊急対応の打ち合わせ
- 6) 市町村防災担当課所室との緊急時対応の打ち合わせ
- 7) 避難所運営に関するマニュアルの整備

3 秋田市の調査結果（25校中24校回答）

1の防災教育への取り組み状況では3)と5)について達成度が高かった。

3)に関しては震災時に被災地で救援活動を行った自衛隊員を講師に招いて、震災時の状況や生命の尊さなどを考えさせた学校があった。

5)に関しては海拔10メートルの中学校の全校生徒が海拔20メートルの小中学校校舎に避難す

る訓練を行ったり、校舎の3階が市の津波避難ビルに指定されている学校では地区住民も避難してくることを想定しながら、全校生徒が3階に避難する訓練を実施した。

2の防災管理等への取り組みについては、1)から4)の項目に関して満足度が高く改善が進んだことが窺われる。4)の「大地震発生時の保護者への引き渡し方法や安否確認の決めごと」に関しては、集団下校の基本手順の確認、災害時引き渡しカードの作成により家庭と連絡を取り、緊急避難先や緊急時の引き取り人を調査するなどの対応が進んでいる。

5)から7)に関しては対応が進んでいない状況が明らかとなった。5)の「地域住民との緊急対応の打ち合わせ」については、緊急時に市の担当者や学校職員より近所の方が早く避難所に駆けつける場合も想定される。体育館の鍵を近所の協力者に預けておき、緊急時にすぐ活用できるようにしている。また中学生が保育園児と一緒に逃げることも考えられる。

7)の避難所運営に関しては、緊急時にはまず公民館等の公共施設が避難所となり、学校はそれでも足りないときに避難所となる。そのような事態に備えて秋田市が作成したマニュアルを学校の実態に合うよう作り直すことなどが必要であるが、まだ進んでいない状況である。

4 まとめ

この調査研究は中学校に関するもので高等学校にはそのまま当てはめることはできないが、今後の防災教育、防災管理の参考になることは多々あると思われる。次年度の計画に生かさればよいと考える。

①災害時の生徒の下校方法について

小中学校では「災害時引き渡しカード」を使って年度初めに保護者と緊急時の下校方法について確認しているようだ。高校では生徒の居住地が広範囲にわたっており、下校方法も徒歩、自転車、バス、電車、自家用車などと様々である。

保護者に迎えに来てもらう生徒も多い。大災害の場合には生徒の安全とともに保護者の身の安全も考慮しなければならず、慎重な配慮が必要である。被害状況、道路状況、公共交通機関の運行状況など、災害の程度に応じた的確に判断しなければならない。帰宅困難な生徒が学校に宿泊する可能性もある。

②災害時の避難方法について

ある中学校では津波を想定して、校舎内の高い階への避難訓練を実施している。本校においても状況によっては校舎外でなく、校舎内の高いところへ避難した方が安全な場合もありうる。様々な状況を想定して避難の方法を予め考えておくことが、いざというとき役に立つと思われる。

③緊急用備蓄品について

食料品、飲料水、自家発電機などの緊急用備蓄品について、何が、どこにあり、どのように使用したらよいか、日頃から教職員に周知しておくべきである。

④地域との連携

小中学校では、近隣町内会の信頼できる協力者に体育館の鍵を預けておくなどの措置をとっているそうだ。本校も避難所に指定されているため、近隣町内と連絡を密にし、このようなことも考えるべきであろう。

また近隣町内の高齢者、障害者などの避難に高校生が援助する場面も考えられる。

秋田市教育委員学校訪問記録

教 務 部

1 期 日 平成25年10月21日（水）

2 訪問委員及び随行者

野口かおり委員 佐藤孝哉課長

3 日 程

9：45～10：00 校長の経営説明
10：00～10：50 授業参観（2校時授業）
11：00～11：50 懇談（会議室）
12：00～12：45 昼食（校長室）

4 経営説明の概要

- ①商業専門高等学校として、社会から要請されている実践的ビジネス能力の育成につとめるとともに、会計・情報・流通各分野において、資格取得をめざした専門的な学習の充実をはかる。
- ②これまで実践してきた「ビジネス実践」の成果を踏まえ、学習の成果を地域社会に発信する。
- ③文武両道の伝統校として、県民、市民に元気と活力ある人材を育成する。

5 主な懇談内容

工藤副校長 挨拶・来賓紹介
小玉教頭 本校職員紹介

野口委員

商業高校には毎年入学式、卒業式に参加するようにしている。他の学校にはないすがすがしい気分させてくれる行事に参加するのが楽しみである。会計コースの授業参観をさせてもらったが、専門的なこと・難しいことをやっている。目標に向かって一生懸命に取り組んでい

る。このような勉強をしている姿をたくさんの方々に知っていただきたいと思う。事業をやっている者として、即戦力として使える生徒に、地元で就職してもらえることが夢である。このような生徒にきちんと地元で活躍してもらるように、私たちも頑張らなければならないと改めて思った。近隣の方や中学校3年生だけでなく、地域の事業所の方々に秋田商業高校は就職、進学でこういう勉強・取り組みをしている学校だということを、もっと広報していくことが必要だと思う。さらに、将来、税理士・公認会計士など専門職を目指す中学生を育成するような取り組みもしてほしいと思う。また、制服の乱れもなく、髪もしっかり結んでおり生徒指導もしっかりしている。

小玉教頭

広報活動について保坂先生から紹介してほしい。

保坂商業科主任

昨年度リニューアルし、週一回はHPの更新を進藤校長から指示されている。時期によって更新の差はあるが、2週間に1回は更新を心がけている。ビジネス実践で小学生を対象に11月1日、2日にキッズビジネスタウンを行う予定で、今年は5年目である。小学生に人気がある職場体験である。2日目は200名程度の参加がある。中学生には、夏に本校への体験入学を実施し、本校の状況について直に体験する機会を設けている。公認会計士や税理士を目指したいという中学生へのPRはこれからの課題と認識している。

小玉教頭

就職のことについて渡辺進路指導主事からお願います。

渡辺進路指導主事

専門学校を含めた進学と就職の割合は進学6割、就職4割であり、外部の方に話をすると驚かれる。就職に関しては、女子生徒の多くが事務職を希望し、学年部・進路指導部を中心にして面接等の指導に取り組んでいる。また、内定率100パーセントだけではなく、離職率を少なくするような進路指導をしている。

野口委員

離職率を低くするための取り組みは非常に良い取り組みである。

渡辺進路指導主事

昨年、一昨年と離職は2～4名程である。全県と比較しても低い方である。本校の歴史が長いので、企業にOBの方々が多く、先輩の顔をつぶすなど送り出している。本校先輩の社員が後輩を育て、離職数も低く抑えられ、うまい循環ができている。秋田商業を指定して、求人を出している企業も多い。

畑沢生徒指導主事

生徒指導は、学年部や部活動でのきめ細かい指導があり、整容を含めてきちんとできていると思っている。また、保護者、OBの方に本校の指導を理解していただいているのも大きいと思う。ただ、自転車事故が多く、本校に限らず秋田市内の高校はどこも自転車事故や乗車マナーに頭を悩ましている。多くの情報を伝え、注意を促しているが、根本的な解決はできていない。今年は今日現在11件の自転車関連の事故があり、昨年度より少ないが、これが一番の課題である。本校校門から下っていった交差点での事故が多い。学校近辺では、スマホを見ながらの運転は見受けられない。全県的には、スマ

ホを見ながらの運転する生徒への指導が課題である。交通安全教室の実施、生徒指導だよりの発行、危険箇所を教室に掲示するなどして、生徒の意識向上に努めている。

佐藤課長

先ほど野口委員からお話があったように、毎回来校するたびに伝統校として落ち着きが感じられる。昨年度、「商業専門学校としての教育活動の充実の方向性について」をテーマにした「高校教育充実に向けた有識者会議」の中で、①秋田商業の子供達は学年部・部活動がしっかりと土台になり生徒を指導し、生徒はきちんとした挨拶ができ、きびきびした動きができる。②現在学校として、秋商スタンダードにある挨拶がしっかりできる、心身ともに健全で意義ある生活をする、明朗闊達な生活をする生徒の育成に努めている。③委員からはそれにプラスして交渉力やプレゼンテーション能力などを育てていくことも新たな秋商スタンダードじゃないか、という意見があり、それが答申にまとめられている。

アキショップの歴史も長くなったが、そういった中で意識して取り組んでいることがあれば教えていただきたい。もう一点は、授業を拝見して簿記とか資格取得に関わる部分の授業のテンションと他の教科のテンションにやや開きがあるのが率直な感想である。今、なぜこの試験があるのか、この資格は取っておけばいいんだよということが、生徒達にとって大きな動機付けであることは間違いないことである。商業高校は簿記とか会計だとかはこの後も資格取得などはあるが、また前年とは違ったものがあるのか教えていただきたい。

保坂商業科主任

交渉力やプレゼンテーション能力はアキショップでやっているといえればそれまでだが、所属している2年3年生450人全員が、2年間で外部の人と交渉するというのは難しいのが自

分たちの課題である。450人を16班に分けてそれぞれ担当の先生が1人か2人付き、商品開発をしている。その過程で企画書を外部の方に来ていただいてプレゼンテーションを行ったり、比較検討会をしている。企画が決定したら電話で話をしたり、実際にお店を訪問している。実際に力がついたのかを数値で表すのは難しいが、商品開発を通して力を養っているので、力はあると思っています。授業中でもプレゼンテーション能力はつけられると認識している。3年生の地域経済の授業では、自分たちの秋田市をどう創っていけばいいのかを考えてレポートにまとめ、ポスターセッションという形で発表させて、周りの生徒から質問を受けるといった活動をしている。授業の中でも交渉力やプレゼンテーション能力を培っていかなければならないと思っている。

佐藤課長

同感である。アキショップは日常の授業等で培われているプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力などを発揮する場であり、授業とアキショップはその意味でリンクしている。

大関研修部主任

国語科では、主に3年生の国語表現の時間で、新聞を読み、関心のある記事について意見文としてまとめたり、あるテーマについてスピーチをしたりするなどの授業を実践している。

保坂商業科主任

資格取得では、日商2級を目指す生徒は会計コースの生徒で、今年は日商1級を勉強して11月に受験する生徒が40名中10名いる。1級を教えるノウハウを身につけるため若い先生が自分も勉強しようと一緒にいる。そういったところがこの学校の良いところかなと思っている。

野口委員

会計ソフトが充実しているのでだれでも決算できる時代になっている。会社としては帳簿の中に隠されている物を分析できる力を養成してほしい。

渡辺進路指導主事

生徒には日商2級をもっているから会社に入ってすぐに役に立つわけではないと話している。取得するための過程の方を重視しなければならないと思う。

野口委員

一般的に、今日本人に不足していることは仕事するときにはこうなさいと言うとそれなりにやるんですけども、それから上がらないというか自分で考えてアピールしたり工夫したりする力が不足していると思う。私は物作りをずっとやってきたので頭の中でクリエーションしながら仕事をしてきた人間で、ちょっと新しいことを考えてとりあえずやってみようという感じで、みんなから無謀すぎるとよく言われる。逆にそういうようなことは絶対必要で、事務職でも販売でもスタンダードな仕事であっても、言われただけでなく、言われてないけれども、このようにしたらいいんじゃないかということ、周りの人にアピールするということ、いろんなことが開けてくることがある。今こっちの仕事をしているけれども、実はこういうことを経験することで、実は私はもしかしたらこっちのほうが向いているかもしれないと将来が見えるかもしれない。そういう交渉力とかアピール力、自己プレゼンテーション力とかが大切だと思う。アキショップみたいに、みんなでやるというときは相談する人もいてわいわいできるかもしれないが、実際会社に入ったら一人。一人で物を考えてそれを表現する力というものをつけていただければと思っている。

保坂商業科主任

「秋商キャリア教育」の中に様々なことを今年は盛り込んだ。2年生までは基礎や資格を取得し、3年生で分析して提案するところに、野口委員がおっしゃった意味合いを持たせている。自分達で問題意識を持つとか、プレゼンテーション能力を意識して、自分の課題を発表するとかは3年生で行うべきだと考えている。会計コースの会計実務と会計の授業の中で、企業の財務処理を分析しその企業がどうなのかということをしている。情報コースでは日経ストックリーグに参加し、ある業界を対象に株の売買で、どのように変化するかを予想し、市場の理解を深める学習をしている。昨年度は何名かの生徒が応募し入賞した。2年生で基礎を固め3年生で利用するというのをいくつかの授業でもやっている。

野口委員

秋田商業高校卒業生で起業している方々が多い。そのような方々との交流はあるか。秋田市内でも20代30代で会社を起こす方が最近すごく多い。生徒にしてみれば少し上の方のいい部分だけではなく、会社をやって良かったこと悪かったこといろいろ話を聞くことによって自分もサラリーマンという形だけでなく、自分が何かやりたいことがあったら自分で会社を起こしてやりたいと思うようになっていけばいいのかと思う。

次に部活動のことについてお聞かせいただきたい。部活動との両立は大変だと思う。

村上特活主任

部活動との両立は永遠の課題。試験前1週間は部活動の練習時間を制限している。もう少し家庭学習の習慣がつけばいいのかと思っている。居眠りは先生方が許さないようにしている。

野口委員

3年生で部活が終わり、就職や進学が決定し

た後に放課後の時間を把握できなくなることがある、その辺を教えてほしいと思う。

渡辺進路指導主事

就職の方はあまり把握していないが、進学者は入学してから勉強しなければならないので放課後残して勉強させている。就職者は自動車免許をとらないといけないこともある。

須藤保健主事

本校は部活動が非常に盛んであり、身体健全で健康な生徒が多い。しかし、1年生は体調を崩す生徒もいる。3年間で鍛えられ健全になっていく。精神面で悩みを持つ生徒もいるが、家庭やスクールカウンセラーを中心に対応している。

小玉教頭

まだ懇談を続けたいが時間となってしまいました。大変貴重なご意見ありがとうございました。

工藤副校長

今回ご指摘いただいたことを重く受け止めて、どう改善していけばいいのかを校内で話し合っ、少しでも改善に向けて努力をしてまいります。また、人間的な力の育成に力を注いでいきたいと思います。

以上、副校長の謝辞により、懇談会を終了。

高等学校授業力向上研修講座報告

英語科 菅 生 あずさ

1 はじめに

高等学校授業力向上研修講座は、小グループによる授業分析や採用3年目の教員に助言するなどの実践的な研修を行い、採用8年目の教員の授業力を高めることを目的とし、今年度新たに始まった講座である。日々の校務にとらわれ自己研鑽を疎かにしがちであるのに加えて、8年目ともなれば慣れからくる感情に流され、厳しいところに身を置かなくなっていたところであった。新学習指導要領が施行されたことで科目の再編が行われ、英語で授業を行うことを強く求められた中で実施されたこの研修は、採用3年目の先生方と活発な意見交換や今までにない指導方法を学ぶことができる貴重な時間となった。今回の研修によって、授業改善や活動内容の精選の重要性を再確認することができた。

2 実施内容

期	期日	研修内容
I	7 / 4 (木)	・オリエンテーション ・グループ別授業分析
II	9 / 19 (木)	・授業改善の取り組み ・模擬授業

3 感想

I 期では各自授業をビデオ撮影し、20分にまとめたものを見て付箋を使った協議を行った。普段自分の授業を見るということが無いため少なからず抵抗を覚えたが、板書は見やすいか、生徒の注意を引きつけているか等、気を配っていたつもりでも客観的に見る事が無かったのでこれらを確認することができたと思う。生徒自身もビデオ撮影ということで始めは反応が鈍かったが、最後の方では緊張も緩んだのか積極的に発言できていた。また他校の先生方の授業を拝聴したところ、テンポ良く指示を出して生徒を動かす授業が多かった。生徒の反応も良く、難しそうだからと敬遠するのではなく、慣れされることも重要な要素であると感じた。活動内容やプリントも生徒が取り組みやすいよう工夫されており、参考になることが多かった。

II 期では採用3年目の先生と組み、コミュニケーション英語 I のある単元について導入部分の模擬授業を行った。特に参考にしたいと思ったのはペア・ワークの活動である。ペアを入れ替わり、間接語法を用いて最初の相手が何と言っていたかを次の相手に伝える。この活動は主語や動詞の活用を変えて発話する必要があるため、より実用的な会話をさせることができる。この研修を通じて、教師のほんの少しの工夫で生徒は高い意欲を持って授業に臨み、より実践的な活動を授業内でできるということを再認識できた。英語力が求められる昨今、本校生徒にも確かな英語力を身につけさせることのできる授業作りをしたい。

第1学年A組 英語科(コミュニケーション英語Ⅰ) 学習指導案

日 時：平成25年6月19日(木) 3校時

指導者：菅 生 あずさ

使用教科書：VISTA English

CommunicationⅠ (SANSEIDO)

1 単元名 Lesson 3 Is Bento English? Section 1

2 目 標

- (1) 海外で日本語のまま紹介される日本文化について、自分の考えを英語で相手に伝えさせる。
- (2) イントネーションや強弱によって聞き手に伝わるように、音読したり会話したりする。

3 単元と生徒

本校生徒は部活動に所属する生徒が多く、それにより弁当を持参する生徒も多い。最近の国内での弁当人気と合わせ、海外で知られる日本文化としての弁当を通して、節約にまで意識を向けさせたい。

4 本時の計画

- (1) ねらい：①日本文化が世界で人気になりつつあることを理解する。

②新出語句を覚える。

- (2) 展 開

段階	指 導 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点	評価の規準
導 入 (5)	1 挨拶 2 導入	・挨拶 ・リスニングをして キーワードをチェックする	・話すことや聞くことへの 興味を高める ・キーワードの中から、自 分聞き取れた単語を チェックさせる	・英語として使われ る日本語と日本文 化について理解し ようと活動に取り 組んでいるか。 (③)
展 開 Ⅰ (15)	3 内容理解 4 語句の確認	・本文のQ&Aをする ・Q&Aを練習する ・語句の確認をする - 英→日 - 日→英	・マッピング法で内容を板 書し、説明する ・テンポよく発音させる ・語(句)の意味と発音を 定着させる	
展 開 Ⅱ (15)	5 音読 6 リプロダクション	・音読をする - 通訳式 英→日 - Chorus Reading - Buzz Reading - Pair Reading - Shadowing - 通訳式 日→英 ・空欄に語句を書かせる	・英文の意味を考えながら 音読させる ・内容を的確にリプロダク ションできるように声か けをする ・答え合わせをさせる	・海外における日本 文化の広がりにつ いて内容を英語で 理解し、リプロダ クションしようと しているか。(④)
ま と め (15)	7 コミュニケーショ ン活動	・3つの“弁当”の中 からどの弁当が好き か選び、理由につい ても会話する	・ヒントとなる表現の一覧 を提示して、生徒が会話 しやすい環境を整える	

評価の観点 ①コミュニケーションへの興味・関心・意欲 ②外国語表現の能力
③外国語理解の能力 ④言語や文化についての知識・理解

LESSON 3: IS BENTO ENGLISH? --1

Step 1 Understanding the text

1 LISTENING

Check the words you hear.

bento anime manga lunch culture

1st

/ 5

2nd

/ 5

2 COMPREHENSION

Q1 Can we use "bento" in English?

- a) Yes, we can.
- b) No, we can't.

Q2 Can we use "anime" in English?

- a) Yes, we can.
- b) No, we can't.

Q3 What does Mr. Brown love?

- a) He loves English culture.
- b) He loves Japanese culture.



3 PAIR WORK

☆ Review the questions above with your partner. Ask each other the questions. Don't look at anything.

4 WORDS AND PHRASES

Step 2 Memorizing key words

E → J	English	Meaning	Practice (3 times)	J → E
	Really!			
	have ~ for lunch			
	of course			
	culture	(名)		

※ 5は割愛

6 WRITING

☆Fill in the blanks.

	Section 1 (p.26)	
①	() this?	これは何でしょう？
②	It's a <i>bento</i> .	ベントーですね
③	() we use "bento" () English?	「ベントー」って英語で使えるんですか
④	Yes, we ().	はい、使えます
⑤	We use <i>anime</i> and <i>manga</i> in English, ().	アニメとかマンガも英語で使います
⑥	Really!	そうなんですね！
⑦	() you have a <i>bento</i> for lunch today?	先生は今日昼食にお弁当を食べますか？
⑧	() (), I ()!	もちろん！
⑨	I () Japanese ().	私は日本文化が大好きです

Step 4 Communication

7 COMMUNICATION

☆Talk with your partner.

Q1 A: Will you have a *bento* today? / Did you have a *bento* today?

B: ① Yes, I will. / Yes, I did.

→ ①A: Which do you like, onigiri or sandwiches?

B: I like _____ because _____ .

②A: What do you usually have for lunch?

② No, I won't. / No, I didn't.

→ A: Which do you usually use, a canteen or cafeteria for lunch?

B: I usually use _____ for lunch.

Q2 A: Have you ever seen "character bento"?

B: Yes, I have. / No, I haven't.

編集後記

平成25年7月23日、甲子園出場を賭けた野球決勝の全校応援中、進藤校長先生が体調を崩され、こまち球場を後になさいました。その後、野球部は甲子園出場を決め、校長先生もさぞ喜ばれたことと思います。気さくで朗らかな笑顔がいつ戻ってくるかと心待ちにしていたのもつかの間、10月29日、校長先生は永眠なさいました。

校長先生は、あらゆる分野でデータ化が進む中、紙媒体の良さを十分に理解していた方でした。『研修集録』を冊子に戻したい、という相談をしたとき、一も二もなく賛成してくださいました。また、職員研修についてのアンケート結果を、紙の節約だと思って回覧してもらっていたときにも、「きちんと全員分プリントして配るように。関心を持ってとっておきたいと思う先生がいるかもしれない。」と諭されました。今でもその言葉を胸に刻んでいます。

昨年度の『研修集録』の巻頭言に次のような言葉を寄せてくださいました。『玉かつま』の原文が紹介されている部分に関しては、勝手ながら訳をつけさせていただきました。

大辞林には研修の意味を次のように書いてある。「学問・技能などをみがき修得すること。特に、職務に対する理解を深め、習熟するために学習すること」

高校教師である私たちには、後半部分がより切実である。私たちには担当する免許教科に対して応分の責任がある。そして私たちは、個性豊かで一人として同じ者がいない生徒を相手にしている。生徒とのつきあいや生徒観察を通して学習することは多い。私自身学習したことで次のようなことがあった。一つ目。Y高校に勤務していたとき、生徒会を担当した時期がある。K君は生徒会長と剣道部の主将を掛け持ちしていた。試合を見に行っていたことがある。彼は小手や胴を打ち込む技術も持っていたが、本番では面にこだわり続けていた。ベスト4をかけた試合だったはずだが、その時も面にこだわり敗れた。後日生徒会室で、面だけではないだろうと話したら「審判は弱小校に厳しく、よりはっきりした勝ち方でなければ旗を上げてくれないのです。」ときりかえされた。二つ目。O高校で、担任だった私はクラス全体の試験結果を公開すると言い切った。その日の学級日誌に日誌当番のSさんが「学級の成績を上げようとするためにそうするのだろうが、される側の生徒の気持ちはみんな違うことをわかっていない。」と書いてあった。翌朝撤回した。

「研修」という言葉が自省することの延長上にある言葉だと考えれば、教師の研修機会は身近に数多くある。

物理学者の顔と随筆家の顔を持つ寺田寅彦は「人の言葉—自分の言葉」の中で、本居宣長の『玉かつま』を紹介しながら次のように書いている。

「おおかた古（いにしえ）を考うる事、さらに一人二人の力もてことごとく明らめ尽くすべくもあらず。またよき人の説ならんからに多くの中には誤りもなどかなからん。必ずわろき事もまじらではえあらず。そのおのが心には、今は古の心ことごとく明らかなり、これをおきてはあるべくもあらずと思ひ定めたることも、思ひのほかにもまた

人の異なるよき考えもいで来るわざなり。あまたの手を経るまにまに、さきざきの考えの上をなおよく考えきわむるからに、次々にくわしくなりもて行くわざなれば、師の説なりとて必ずなずみ守るべきにもあらず。よきあしきをいわず、ひたぶるに古きを守るは、学問の道には、いかいなきわざなり。(訳；だいたい、古い時代のことについて考えることは、決して一人や二人の学者の力で、すべて明らかに研究し尽くすことができるわけではない。また、すぐれた学者の学説であるからといって、多くの学説の中には誤りがないなどということがあろうか、いや、あるはずだ。必ず悪いことも混じらないわけにはいかない。その人自身の心には、「今はもう古い時代の精神は全て明らかである。この自分の学説をさしおいて、他によい学説があるはずがない。」と心に決めていることでも、予想外に、また誰か他の人の、良い考えも出てくるものである。多くの人の研究を重ねるにつれて、以前の学者の考えの、その上のことを、なおよく考えるので、次々と、徐々に詳しくなっていくことなので、師の学説だからといって、必ずこだわり、いつまでも守っていくべきものでもない。学問の良い悪いを問題にせず、ひたすら古い学説を守るのは、学問の道においては、取るに足らないことなのだ。))」

この初めの「古(いにしえ)を考うる事」というのを「物理学上のいかなる問題にても」と改めて、もう一ぺんははじめから読み返してみるとおもしろい。この宣長の言葉をかみしめる事をすべての科学の研究者にすすめたい。ー以下省略ー

寺田寅彦は、置き換え手法で科学の研究者に対して、あるべき研究者の生活姿勢を求めている。この部分を教師に置き換えれば研修の大切さが私たちにより迫ってくるように思う。

研修の機会は、身の回りのあらゆる場面にあり、本人が研修だと捉えればそれは研修になるのだということ、また、既成の学説をやみくもに踏襲するのではなく、更なる高みを求めて自らを磨かなければならないのだということを、校長先生は私たちに伝えたかったのではないのでしょうか。

研修の大切さを誰よりもわかっていた進藤隆校長先生に、この『研修集録』を捧げたいと思います。

大 関

平成25年度 研修集録

発行日 平成26年 3 月31日

発行者 秋田市立秋田商業高等学校

〒010-1603 秋田市新屋勝平台 1 - 1

T E L 018-823-4308~9

F A X 018-823-4310

印刷所 株式会社フロム・エー



校 訓

感謝
勤勉
鍛鍊